

資料編

1 計画策定経過と体制.....	資- 1
2 坂井市ごみに関する市民アンケート調査結果.....	資- 3
3 「拠点回収方式」に関する市民ワークショップの実施概要.....	資-34
4 用語集.....	資-42

I. 計画策定経過と体制

■ 計画策定経過

開催日	会議等	検討内容等
令和6年7月12日	第1回 審議会	計画改定の基本的事項について、坂井市のごみ処理の現状等について検討
令和6年7月～10月	市民ワークショップ	丸岡地区の資源ごみについてワークショップを実施
令和6年8月～9月	市民アンケート	市のごみに関する状況等についてアンケートを実施
令和6年11月6日	第2回 審議会	市民ワークショップ及び市民アンケートの実施報告について、計画改定素案について検討
令和7年1月17日 ～1月31日	パブリックコメント	計画改定案に対するパブリックコメントの実施
令和7年2月5日	第3回 審議会	パブリックコメントの実施報告及び計画改定案の最終確認
令和7年2月19日	答 申	市長への答申

■ 計画策定体制

坂井市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

任期：令和6年7月12日から令和7年3月31日まで

役職	氏名	分野	所属
会 長	水上 聡子	学識経験者	アルマス・バイオコスモス研究所
副会長	伊藤 浩	市民代表	大関クリーン隊
委 員	大井 七世美	市民代表	三国サンセットビーチ振興会
//	小川 寛興	回収委託事業者	有限会社 丸岡美研
//	小坂 絹代	排出事業者	株式会社平和堂 アル・プラザアミ
//	竜田 麻紀	廃棄物施設関係者	福井坂井地区広域市町村圏事務組合
//	西木 憲治	市民代表	春西見守りネットワーク
//	廣井 富美子	市民代表	さかい環境を考える会
//	古館 佳津江	市民代表	グリーンズ・エコ
//	松川 信之	福祉関係者	社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

■ 調査概要

坂井市に居住する市民のごみ排出状況、ごみの効果的な出し方やリサイクルのあり方、市の施策に関する意見等を把握し、第二次坂井市一般廃棄物処理基本計画の中間年度見直しにおいて、今後の一般廃棄物に係る課題を明らかにし、計画見直し策定に資することを目的に、本調査を実施した。

① 調査地域	坂井市内を対象に実施
② 対象者	坂井市に在住の満 20 歳以上の方
③ 抽出方法	年齢別人口を基に年代で送付数を割り付けし、住民基本台帳からランダムに 2,000 人をサンプリング
④ 調査方法	郵送配布・郵送回収による郵送調査法及び WEB 回答調査法（ロゴフォーム）
⑤ 調査実施工程	令和 6 年 8 月 8 日（木）：アンケート発送 令和 6 年 9 月 17 日（火）：アンケート回答締切
⑥ 質問数	26 問

アンケート対象者	満 20 歳以上の坂井市民 (年代を基に無作為抽出)
発 送 数	2,000 通
有効発送数	1,997 通
回 収 数	郵送回収 734 通 W E B 回答 186 通 計 920 通
有効回収数	46.1 %

■ 調査結果の概要

(1) ごみ出しの状況について

- ・自身が家庭におけるごみ出しを主に行っている割合は約 54%と最も高くなりました。(問 7)
- ・「ごみの 3 きり運動」を行っている^{注 1}の割合は約 92%と最も高くなりました。(問 8)
- ・ごみ出しを同居の家族以外の方に手伝ってもらっている市内の家庭について、知っていると回答した人は約 6%となりました。また、ごみ出しを手伝ってもらっている家庭は、「別居の家族や親類」「ヘルパー等」に支援されていることがわかります。(問 9)
- ・民間のリサイクルステーションは、雑紙・紙パック・スチール缶・廃食油を除いた品目において、5 割以上の人によって利用されており、市民の利用頻度が高いことがわかります^{注 2}。品目別に利用されている割合をみると、段ボール約 70%が最も高く、次いでペットボトル約 66%、アルミ缶約 60%、新聞・チラシ及び雑誌で約 58%となりました。地域別にみると、多くの品目において春江町・坂井町が利用していると回答した人の割合が高くなっており、三国町が低くなっています。利用品目で多く利用されている段ボールを例として、年齢別に民間リサイクルステーションを利用している人の割合をみると、年齢層が高まるにつれて利用している人の割合が下がっています。また、令和元年に行われたアンケート調査結果と比較すると、利用している割合が最も上がったのは段ボールで約 13 ポイント増、次いで新聞・アルミ缶で約 9 ポイント増となっています。若い世代での利用度が高い傾向にあることが伺えます。(問 10)

注 1) 「取り組んでいる」「一部に取り組んでいる」の合計

注 2) 「利用しているが、市の回収に出す量よりも少ない」「利用しており、市の回収に出す量よりも多い」の合計

(2) 資源ごみの分別、ごみ出しについて

- ・缶類の分別がどこまで必要(対応できる)かの問いでは、3 分類(アルミ・スチール・その他)と回答した割合が最も高く約 37%、次いですべて同一の回収袋で回収が約 32%となりました。(問 11)
- ・古紙の収集方法については、市内に回収場所を数か所設け、いつでも回収できるようにすると回答した人の割合が約 49%と最も高くなりました。(問 12)
- ・年間におけるごみステーションの管理当番の回数は、0~1 回の割合が最も高く約 37%、次いで 2~3 回が約 35%となりました。一方で、4 回以上で約 13%あり、地域での当番の管理について違いが生じていることがわかります。(問 13)

- ・当番に対する考え方としては、地域への協力のため当然だと回答した人の割合が約 48%と最も高くなっており、反対に不満だと回答した人は約 7%となりました。不満だと回答した人が考える理由としては、「日常の忙しさによる時間の制約」「他の家事と仕事との兼ね合い」と回答した人が特に多くなりました。(問 14)
- ・資源ごみの回収方法が丸岡地区とその他 3 地区（三国・春江・坂井地区）で異なっていることについて、知っている人と回答した人の割合は約 25%となり、知らない人と回答した人の割合は約 75%となりました。お住まいの地区以外の状況については把握していない人が多いことが伺えます。(問 16)
- ・丸岡地区が行っている「拠点回収方式」について、知っている人と回答した人の割合は約 25%となり、他地区で行っている方法を知らない人の割合は約 75%と高くなりました。(問 17)
- ・丸岡地区にお住まいの方に対して、資源ごみの回収方法について、今後どの方式が地域にふさわしいかの問いでは、拠点回収方式と回答した人の割合が約 49%、ステーション回収方式と回答した人の割合が約 51%と同程度となりました。地域別にみると、ステーション回収方式と回答した人の割合が最も高いのが高棕東部で約 67%、次いで城のまち・磯部で約 57%、拠点回収方式と回答した人の割合が最も高いのが長畝で約 62%、次いで鳴鹿で約 54%、高棕で約 49%となりました^{注 3}。(問 18)
- ・丸岡地区にお住まいの方に対して、「拠点回収方式」を今後も続けた方がよいかの問いでは、続けた方がよいと回答した人の割合が約 48%と最も高くなりました。地域別にみると、続けた方がよいと回答した人の割合が最も高いのが鳴鹿で約 62%、次いで高棕で約 53%、磯部で約 51%、反対に続けない方がよいと回答した人の割合が最も高いのが高棕東部で約 26%、次いで鳴鹿で約 23%、城のまちで約 20%となりました。また、わからないと回答した人の割合が最も高いのが城のまちで約 43%、次いで高棕東部・長畝で約 40%となっています。(問 19)
- ・三国・春江・坂井地区にお住まいの方に対して、「拠点回収方式」を市全域で展開することに賛同するかの問いでは、わからないと回答した人の割合が約 51%と最も多く、次いで賛同しないが約 34%となりました。(問 20)
- ・「拠点回収方式」についてどのように考えるかの問いでは、「現在の回収方式が定着しているので、あえて統一する必要はない」という意見が最も多く、次いで「搬出場所まで距離があるので、地域の要望に応じ、搬出場所を増やすべき」が多くなり、約 4 割の回答者が現状維持を求めていることがわかりました。(問 21)

注 3) 竹田は回答数が 1 件しかないため、評価に含めていない。

(3) ごみの減量などについて

- ・ごみの分別と減量化についての関心があるかの問いでは、回答した人の約 8 割が関心がある^{注4}となりました。(問 22)
- ・ごみの分別と減量化に取り組むことを通じて、坂井市の財政負担の軽減や環境保全に協力したいかの問いでは、回答した人の約 9 割が協力したと思う^{注5}となりました。財政負担をできるだけ軽減し、地球環境への負担を減らすことに協力したいという高い意識が伺えます。(問 23)
- ・ごみの減量のため、どのような事に取り組んでいるかの問いでは、「生ごみは水切りをしてからごみ袋に入れている」が最も高く、次いで「レジ袋はもらわないようにしている」、「消費期限など確認して購入している」、「食べきれる量の食料品を購入している」、「冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物をしている」、「マイ箸やマイボトルを使用している」、「過剰な包装は断っている」となりました。(問 24)
- ・家庭からでるごみの量について、発生抑制や資源化することでどれくらい減らすことができるかの問いでは、「若干は減らせる」が約 35%と最も高く、次いで「現在十分減らしており、これ以上減らせる余地はない」・「1 割程度は減らせる」で共に約 21%となりました。また、ごみの量をさらに減らすためにどんなことに取り組む必要があるかの問いでは、「食べきれる量の食料品を購入する」が最も多く、次いで「冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物をする」、「過剰な包装は断る」、「レジ袋はもらわないようにする」、「生ごみは水切りをしてからごみ袋に入れる」、「マイ箸やマイボトルを使用する」、「使い捨て製品はできるだけ買わないようにする」となりました。(問 25)
- ・家庭では「食品ロス」を出していると思うかの問いでは、回答した人の約 4 割が出していると思う^{注6}と回答しました。また、食品ロスが発生する原因についての問いでは、「食品が傷んでしまった」が最も多く、次いで「消費期限」が切れてしまった」、「賞味期限」が過ぎてしまった、「食品を購入したことを忘れていた」、「食材を買いすぎてしまった」となりました。(問 26)

注 4)「関心がある」「多少関心がある」の合計

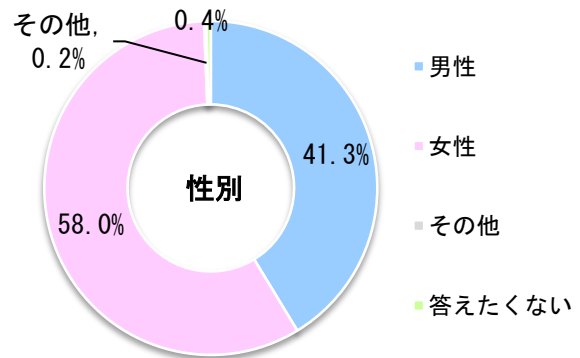
注 5, 6)「とても思う」「まあ思う」の合計

■ アンケート調査結果

1 回答者の属性

問1 性別（○は1つ）

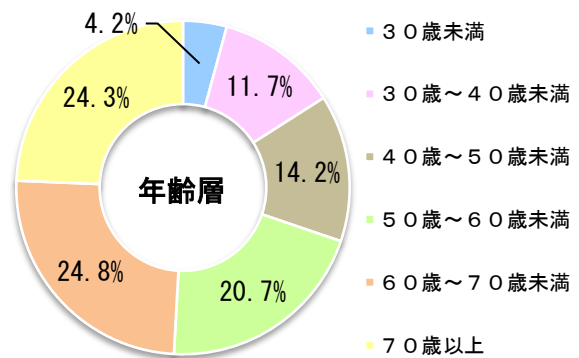
性別は「女性」が58.0%、「男性」が41.3%であり、女性が多くなっています。



問2 年齢層（○は1つ）

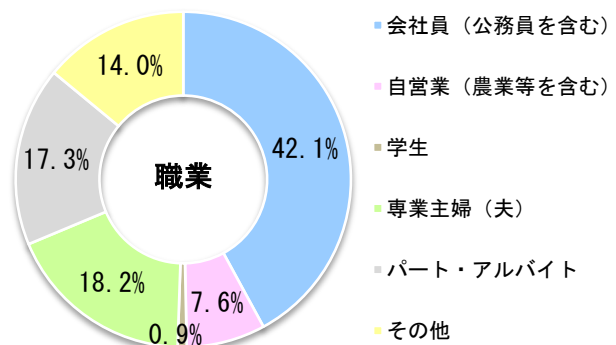
年齢層は、「60～70 歳未満」が24.8%と最も多くなっています。

次いで、「70 歳代以上」が24.3%、「50～60 歳未満」が20.7%、「40～50 歳未満」が14.2%、「30～40 歳未満」が11.7%、「30 歳未満」が4.2%となっています。



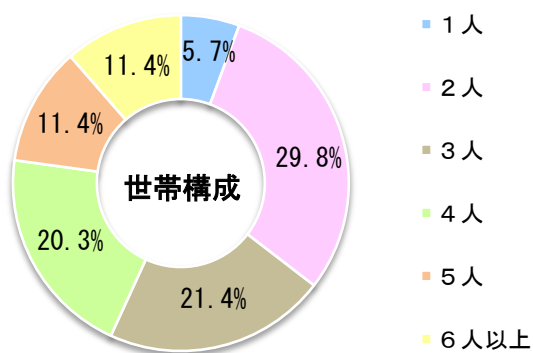
問3 職業（○は1つ）

職業は、「会社員」が42.1%と最も多くなっています。次いで、「専業主婦（夫）」が18.2%となっています。



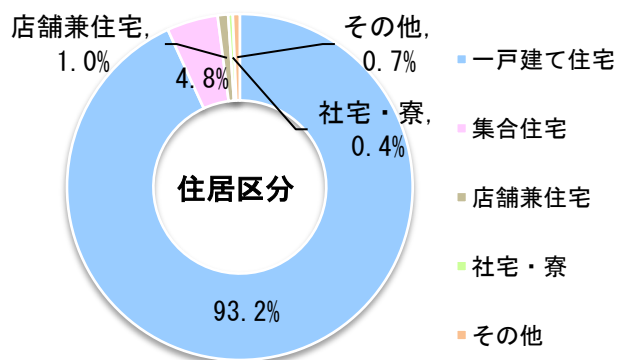
問4 世帯構成（○は1つ）

世帯構成は、「2人」が29.8%と最も多くなっています。次いで「3人」が21.4%、「4人」が20.3%となっています。



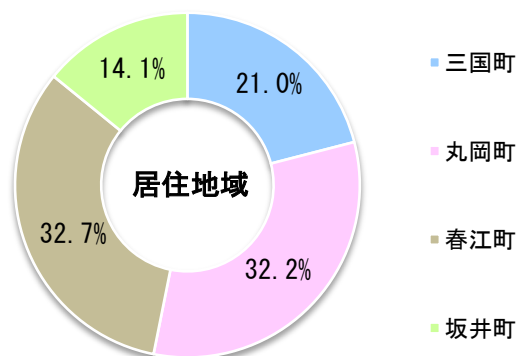
問5 住居分類（○は1つ）

住居分類は、「一戸建て住宅」が93.2%、「集合住宅」が4.8%となっています。

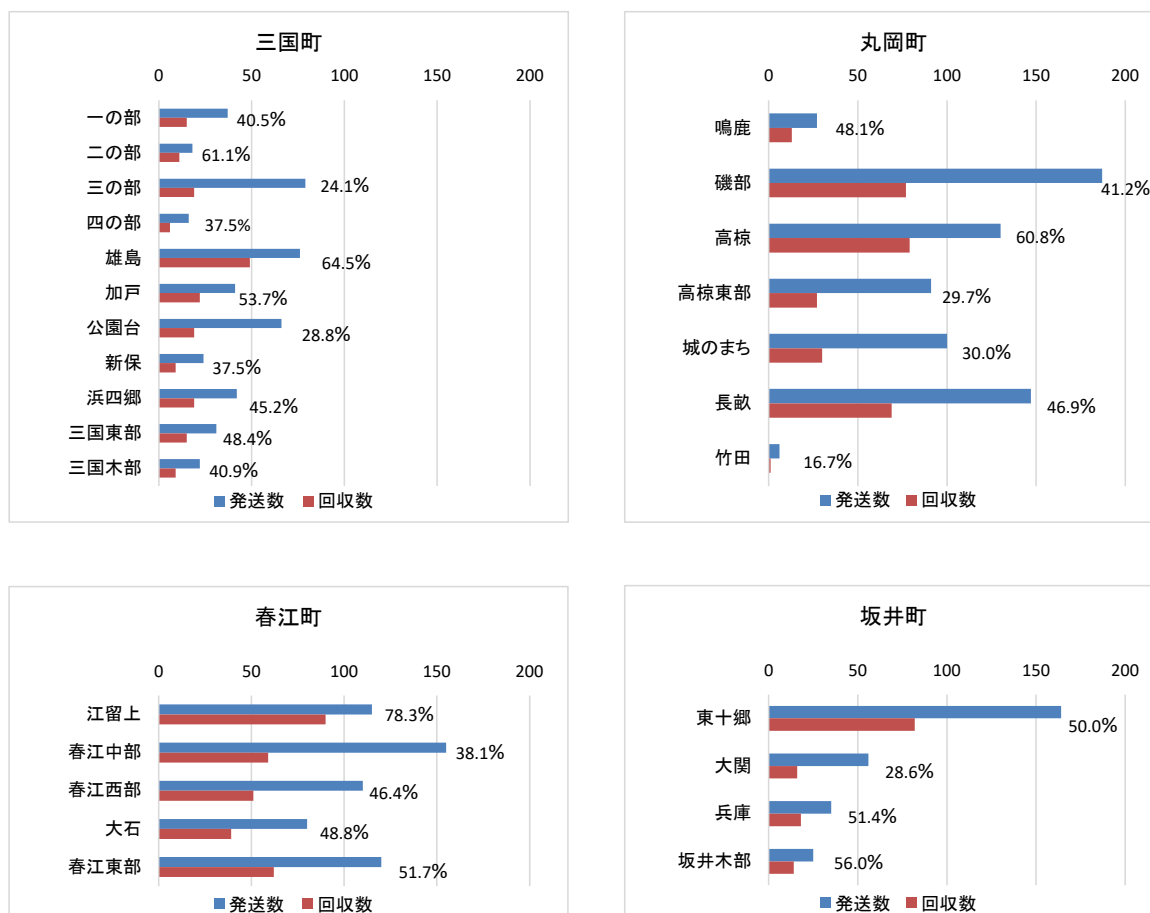


問6 居住地区（○は1つ）

居住地区は、町別では「春江町」が32.7%と最も多くなっています。
（地区別発送・回収状況は次頁）



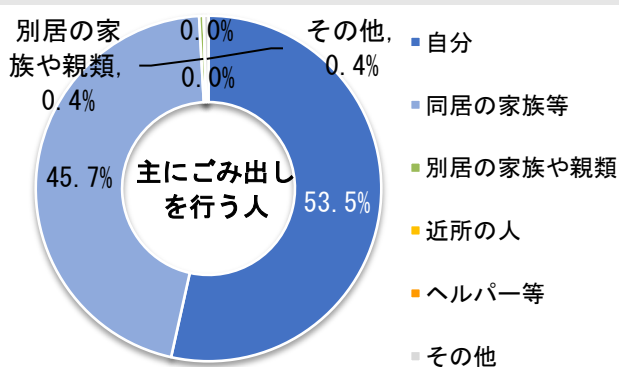
【地区別発送・回収状況】



2 ごみ出しの状況

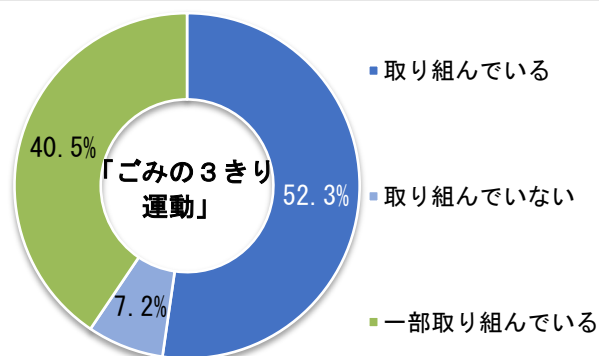
問7 あなたの家庭では、主に誰がごみを出していますか。(○は1つ)

「自分」が約54%と最も高く、次いで「同居の家族等」が約46%となっています。



問8 あなたの家庭では、「ごみの3きり運動」に取り組みごみを出していますか。(〇は1つ)

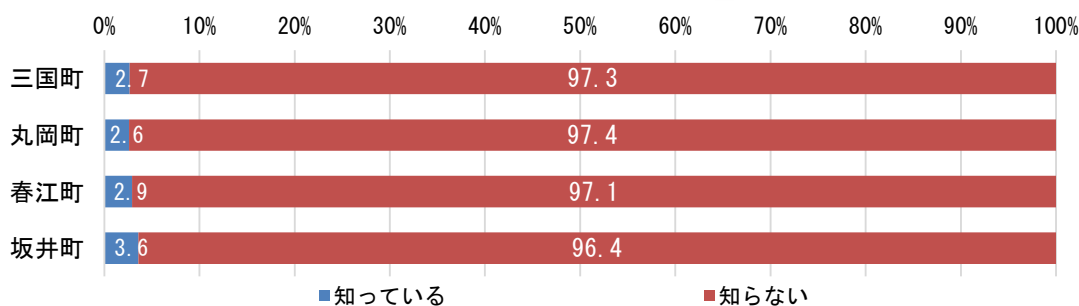
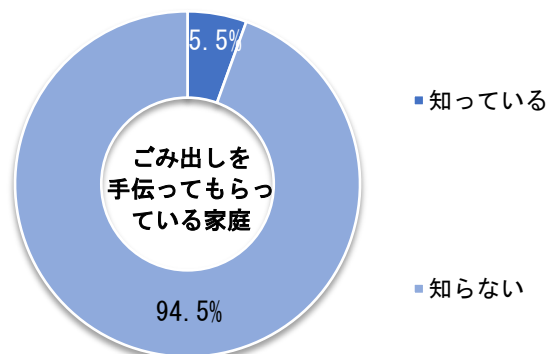
「取り組んでいる」が約 52%と最も高く、次いで「一部取り組んでいる」が約 41%となっています。



問9 あなたやご家族は、身体が不自由などの理由からごみ出しを同居の家族以外の方に手伝ってもらっている坂井市内のご家庭をご存知ですか。(〇は1つ)

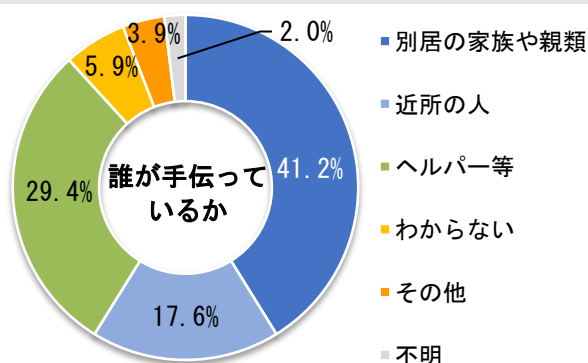
「知らない」が約 95%と高くなっています。

町別でみると、「知っている」の割合が最も高いのは坂井町(約 4%)で、その他は約 3%となっています。



その方はどなたにごみ出しを手伝ってもらっていますか。(〇は1つ)

「別居の家族や親類」が約 41%と最も高く、次いで「ヘルパー等」が約 29%となっています。



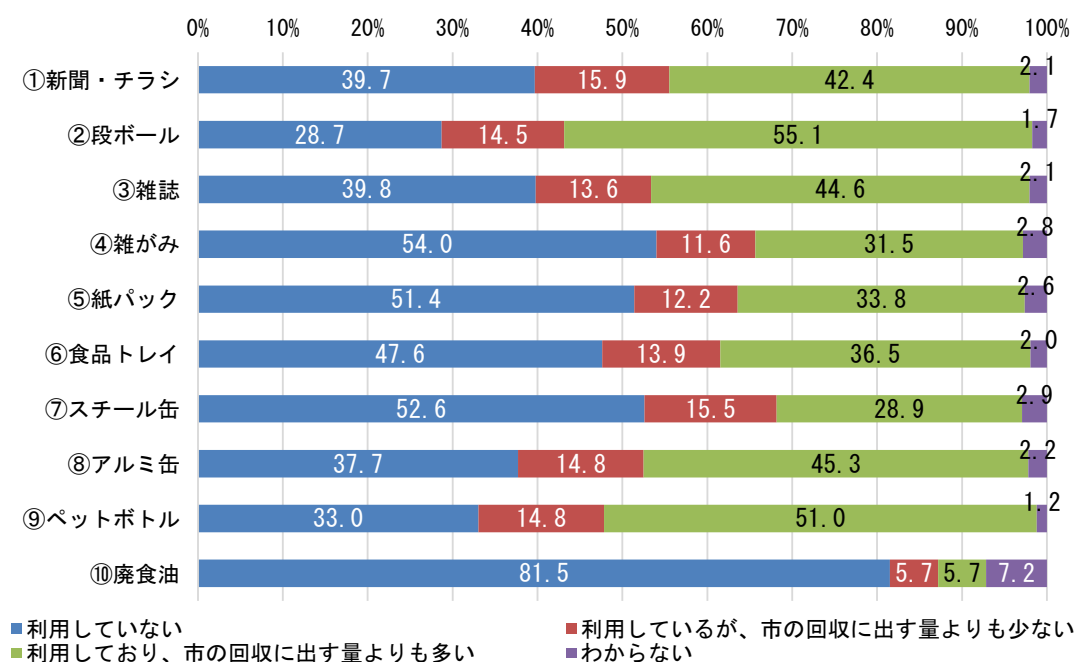
問10 あなたの家庭では、民間（スーパー等）のリサイクルステーションを利用していますか。

また、利用している場合、年間に民間リサイクルステーションに出す資源物の量は市の回収に出す量と比べてどうですか。

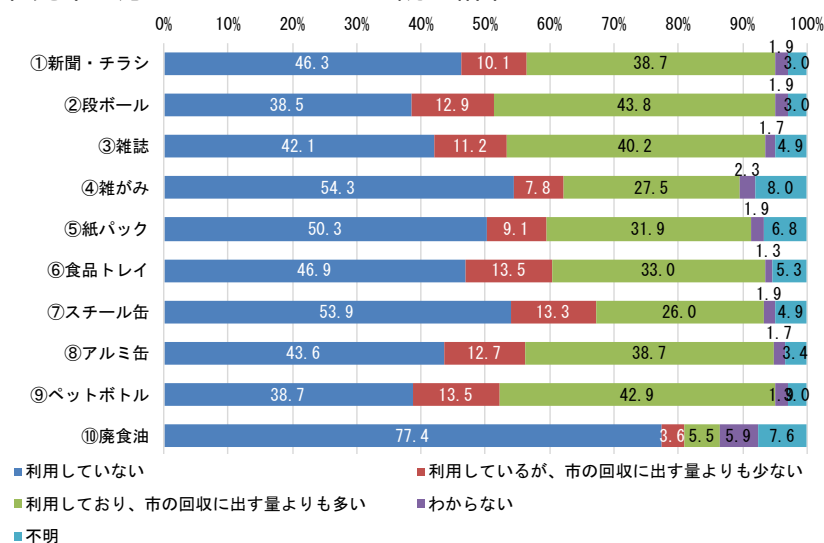
（それぞれ〇は1つ）

利用している割合が最も高い^注のは段ボール（約70%）で、次いでアルミ缶（約60%）となっています。雑紙・紙パック・スチール缶・廃食油を除いた品目は、利用していると回答した割合が50%以上となっています。

令和元年に行われたアンケート調査結果と比較すると、利用している割合が最も上がったのが段ボールで約13ポイント、次いで新聞・ペットボトル・アルミ缶で約9ポイントとなっています。



※参考 令和元年9月におけるアンケート調査結果

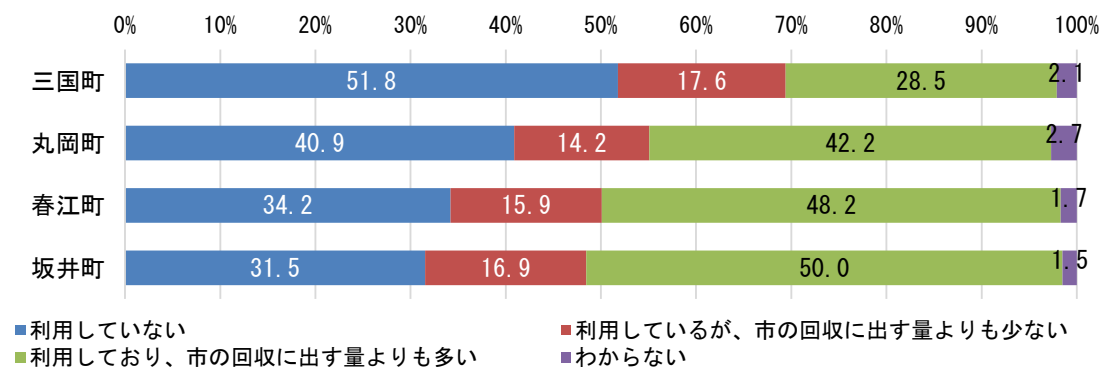


注) 「利用しているが、市の回収に出す量よりも少ない」「利用しており、市の回収に出す量よりも多い」の割合の合計

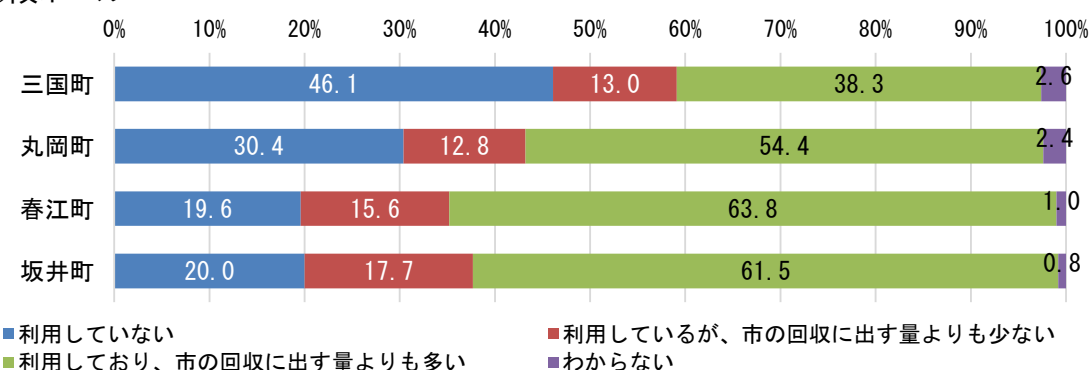
※参考 【町別クロス集計結果】

町別にみると、利用している割合が高いのは春江町・坂井町となっています。

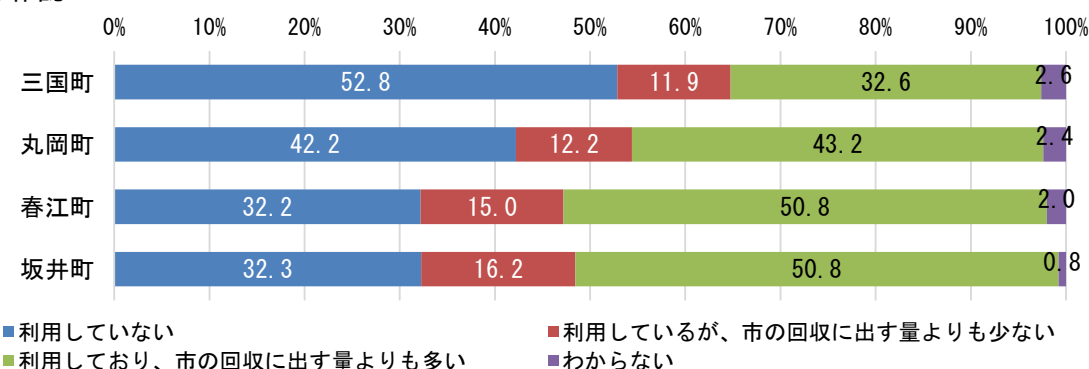
①新聞・チラシ



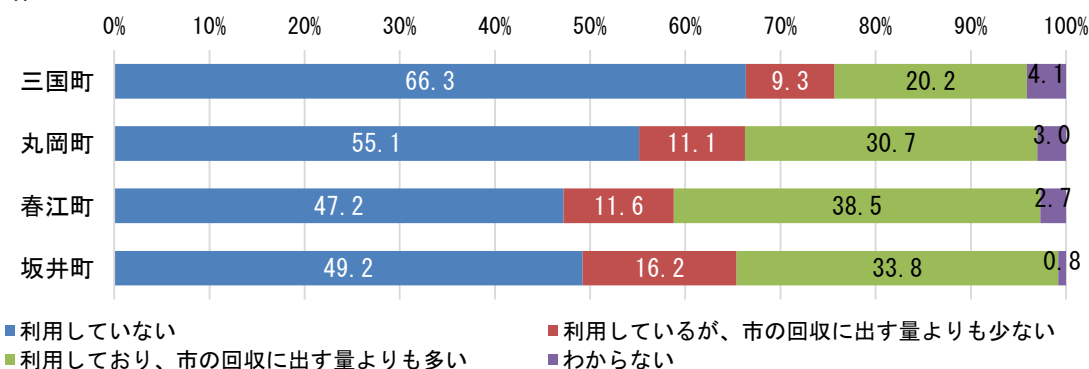
②段ボール



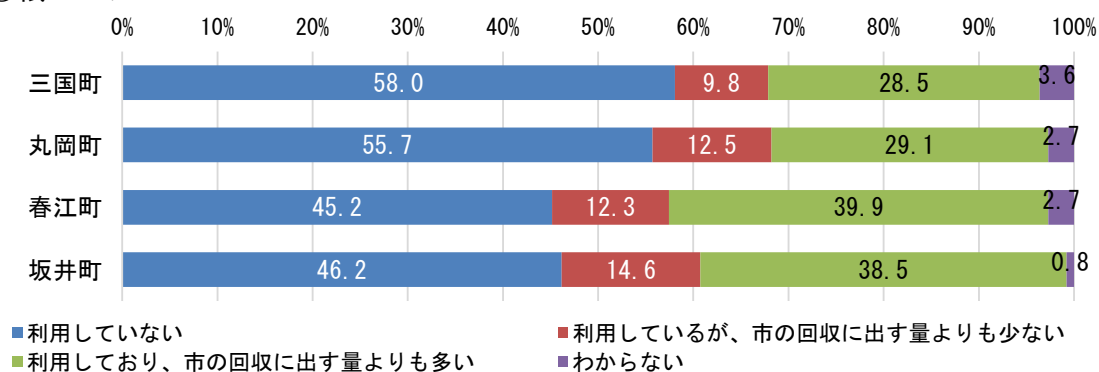
③雑誌



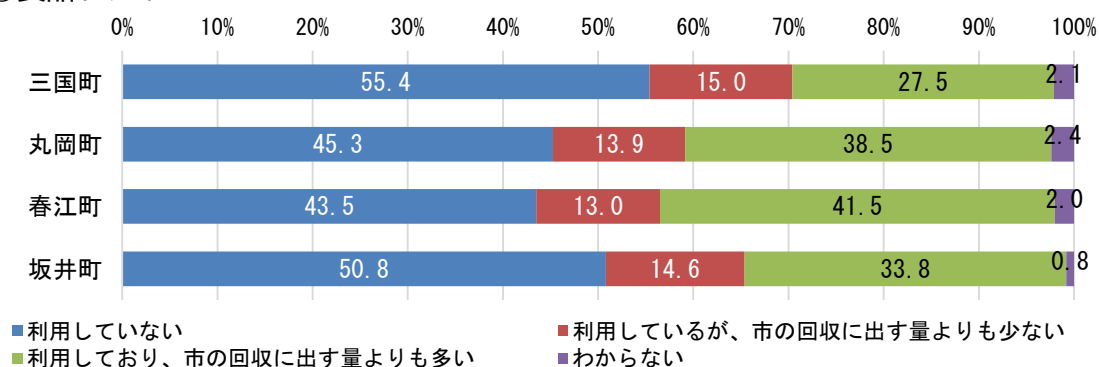
④雑がみ



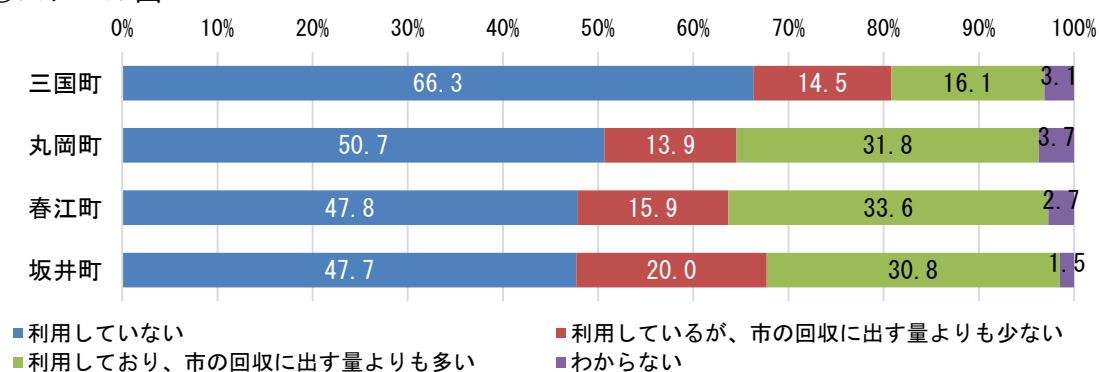
⑤紙パック



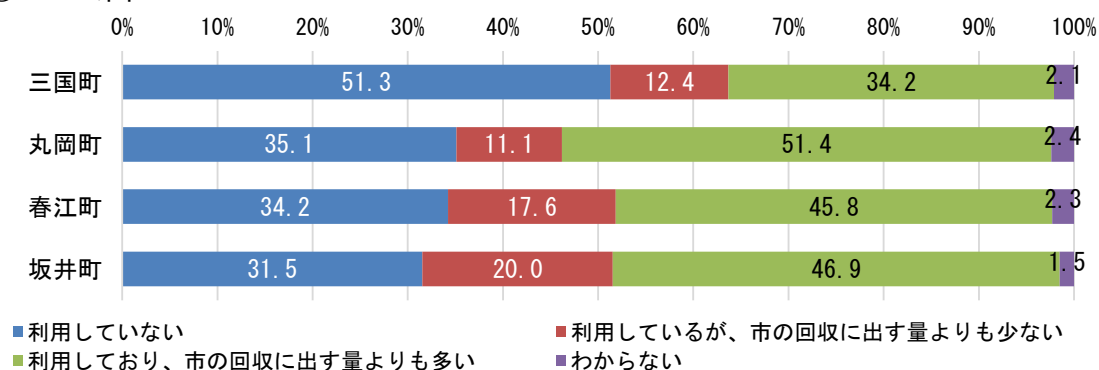
⑥食品トレイ



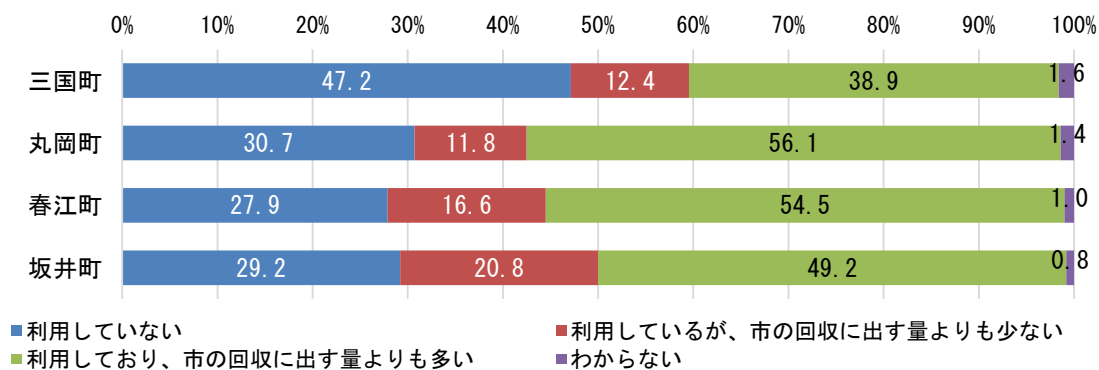
⑦スチール缶



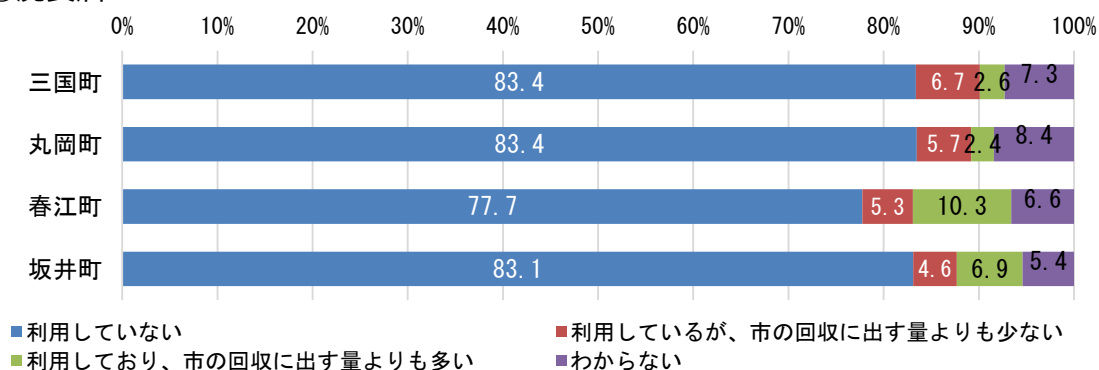
⑧アルミ缶



⑨ペットボトル

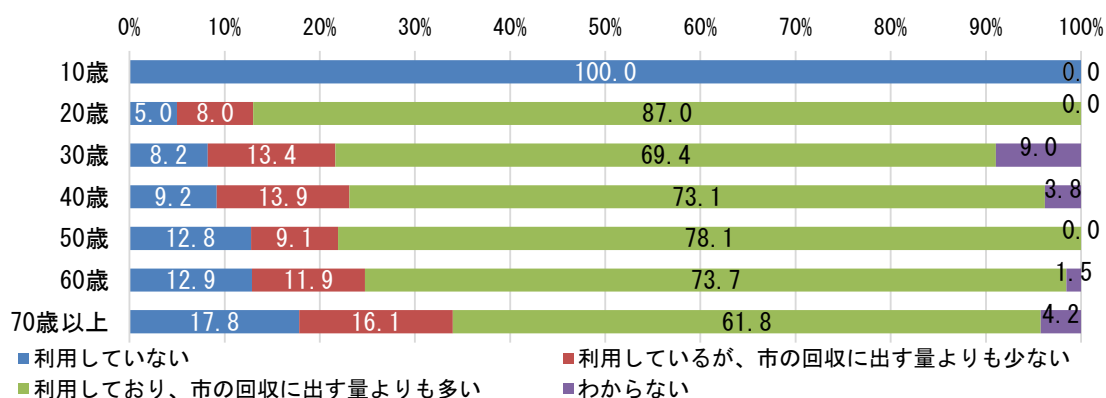


⑩廃食油



※参考 【年齢階層別クロス集計結果】

年齢階層別にみると、利用している割合が最も高いのは20歳代（約95%）で、次いで40・50歳代（約87%）となっています。

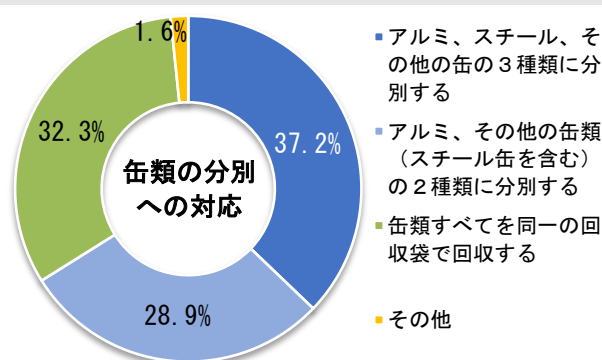


注）年齢階層別クロス集計結果は、民間リサイクルステーションを利用している割合が最も高い「段ボール」における結果。

3 資源ごみの分別の考え方

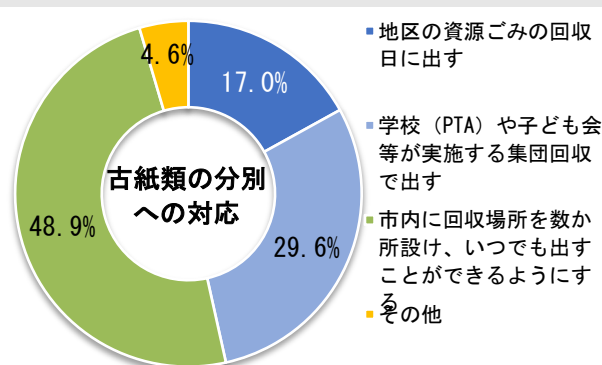
問1 1 缶類の分別について、あなたはどこまで対応できると考えますか。
(○は1つ)

アルミ、スチール、その他の缶の3種類に分別する」が約37%と最も高く、次いで「缶類すべてを同一の回収袋で回収する」が約32%となっています。



問1 2 古紙類の出し方について、どのような出し方がいいと考えますか。
(○は1つ)

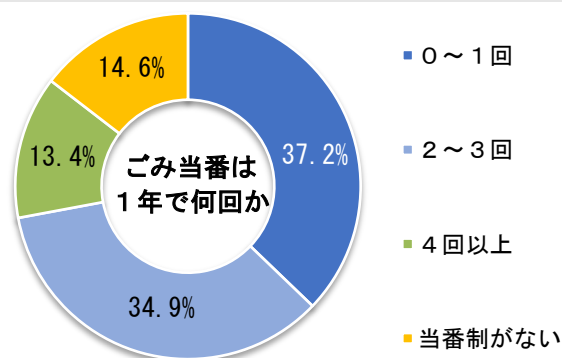
「市内に回収場所を数か所設け、いつでも出すことができるようにする」が約49%と最も高く、次いで「学校（PTA）や子ども会等が実施する集団回収で出す」が約30%となっています。



4 資源ごみのごみ出し状況

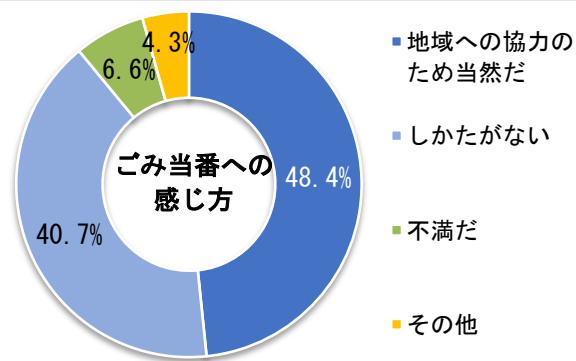
問1 3 ごみステーションの管理当番は1年で何回程度ありますか。
(○は1つ)

「0～1回」が約37%と最も高く、次いで「2～3回」が約35%となっています。



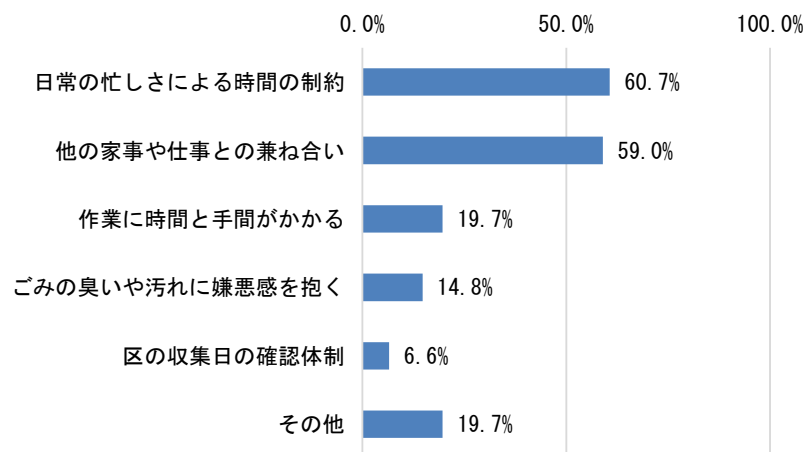
問14 当番について、あなたはどのように感じていますか。(〇は1つ)

「地域への協力のため当然だ」が約48%と最も高く、次いで「しかたがない」が約41%となっています。



どのような理由で不満だと感じていますか。(〇はいくつでも可)

「日常の忙しさによる時間の制約」が最も多く、次いで「他の家事や仕事との兼ね合い」、「作業に時間と手間がかかる」となっています。



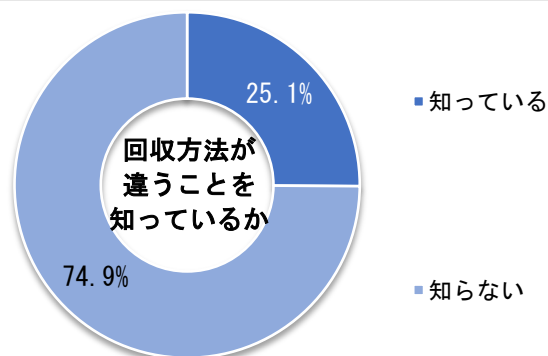
問15 当番制度を改善するためには、どのような点に注力すべきだと思いますか。(自由回答)

- ・当番の負担にならないように、きちんと分別する
- ・リサイクルや分別の重要性を知ってもらい、ルールを守ってもらう
- ・カゴなどに回収品目を分かりやすく明記し出しやすくする
- ・高齢者や障がい者など、配慮が必要な人には協力が必要
- ・通勤など朝の忙しい時間は困難な世帯が多く、時間の見直しが必要
- ・当番は必要 ⇔ ・当番の必要性が分からない
- ・鍵当番は必要 ⇔ ・ダイヤル式の鍵で番号を共有すれば必要ない
- ・個人がきちんと分別をすれば監視・チェックを行う必要ない
- ・回収業者やシルバー人材センターなどを活用する
- ・いつでも出せるような回収場所を設ける

など

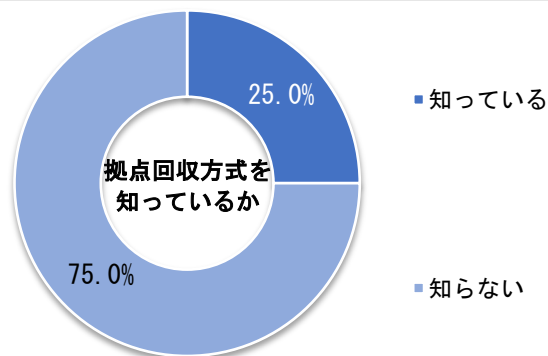
問16 資源ごみの回収方法が丸岡町とその他3町（三国町・春江町・坂井町）で異なっていることをご存じですか。（○は1つ）

「知らない」が約75%と高くなっています。



問17 丸岡地区が行っている「拠点回収方式」をご存じですか。（○は1つ）

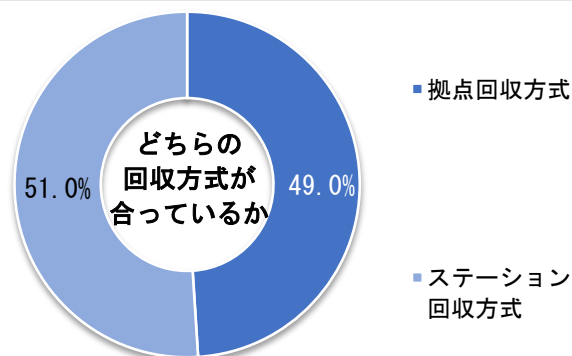
「知らない」が約75%と高くなっています。



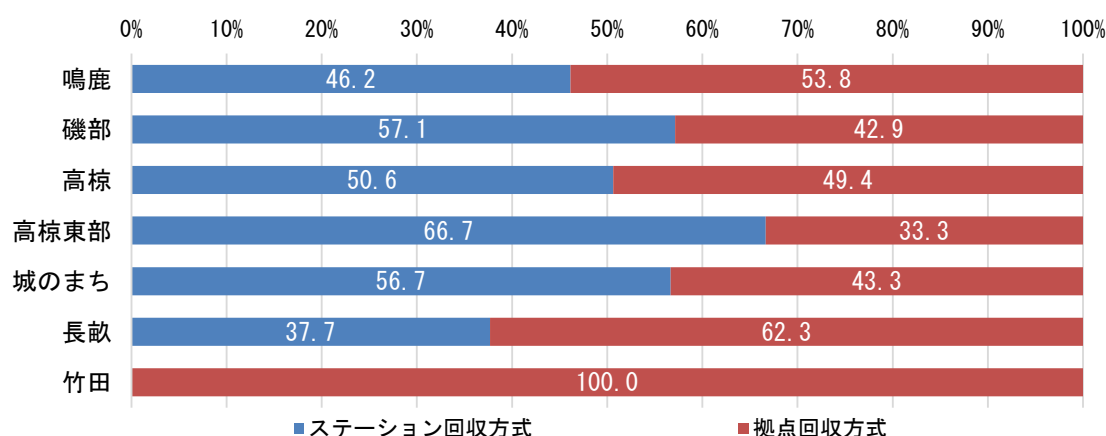
問18 （丸岡地区にお住まいの方のみ）資源ごみの回収方法について、現状および今後を見据えた場合、どの方式がお住まいの区にあると考えますか。（○は1つ）

「ステーション回収方式」が約51%と高くなっています。

地区別にみると、ステーション回収方式と回答した割合が最も高いのが高棕東部で約67%、拠点回収方式と回答した割合が最も高いのが長畝で約62%となっています^注。（地域別クロス集計結果は次頁）



【地区別クロス集計結果】

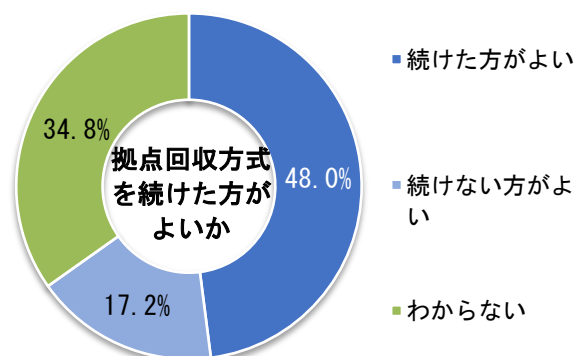


注) 竹田は回答数が1件しかないため、評価に含めていない。

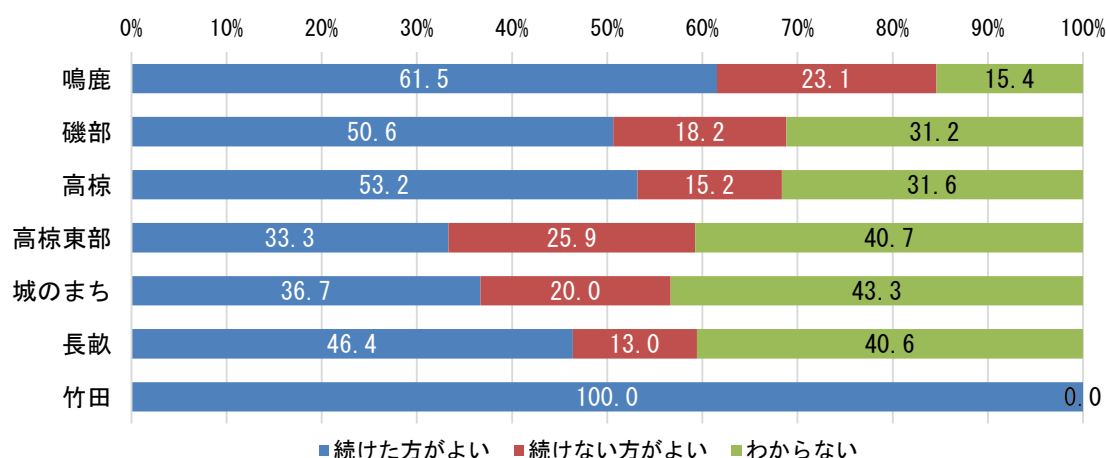
問19 (丸岡地区にお住まいの方のみ)「拠点回収方式」を今後も続けた方がよいと考えますか。(○は1つ)

「続けた方がよい」が約48%と最も高く、次いで「わからない」が約35%となっています。

地域別にみると、拠点回収方式を続けた方がよいと回答した人の割合が最も高いのは鳴鹿で約62%、続けない方がよいと回答した人の割合が最も高いのが高棕東部で約26%となっています。また、わからないと回答した人の割合が最も高いのが城のまちで約43%となっています^注。



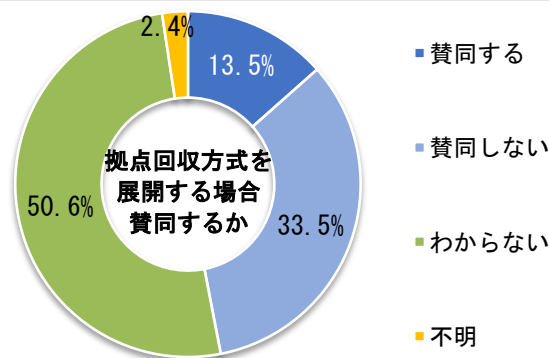
【地区別クロス集計結果】



注) 竹田は回答数が1件しかないため、評価に含めていない。

問20 (三国・春江・坂井地区にお住まいの方のみ) 丸岡地区が行っている「拠点回収方式」を市全域で展開するとした場合、賛同しようと考えますか。(○は1つ)

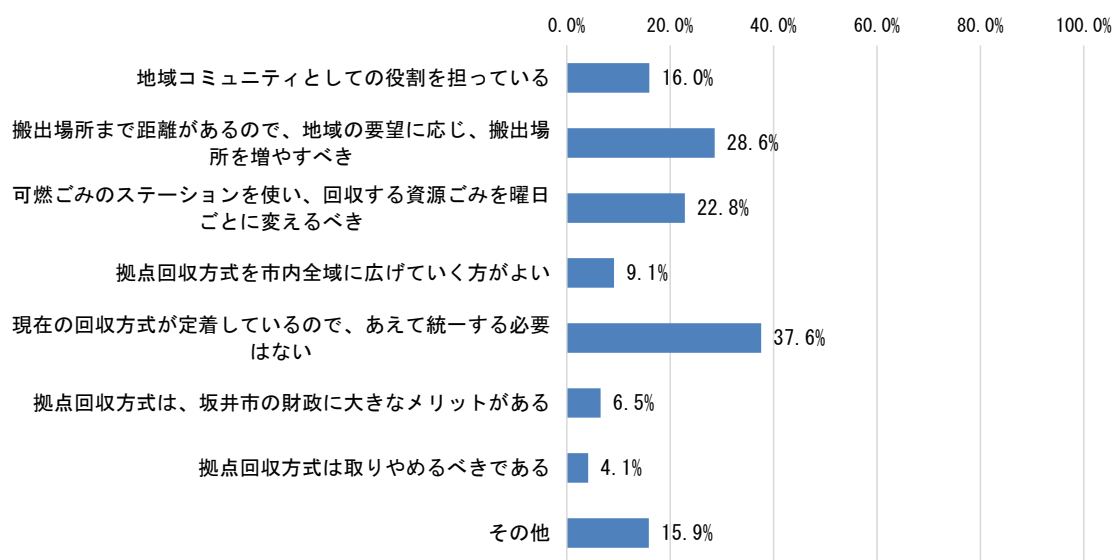
「わからない」が約51%と最も高く、次いで「賛同しない」が約34%となっています。



問21 「拠点回収方式」についてどのように考えますか。(○はいくつでも可)

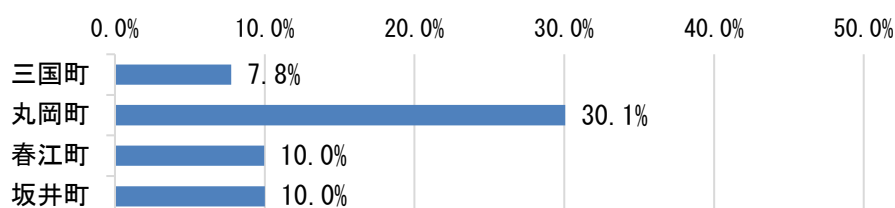
「現在の回収方式が定着しているので、あえて統一する必要はない」が最も多く、次いで「搬出場所まで距離があるので、地域の要望に応じ、搬出場所を増やすべき」となっています。

町別にみると、「地域コミュニティとしての役割を担っている」を選択した人は丸岡町が他の町よりも特に多く、「現在の回収方式が定着しているので、あえて統一する必要はない」を選択した人は、丸岡町が他の地区よりも特に少なくなっています。

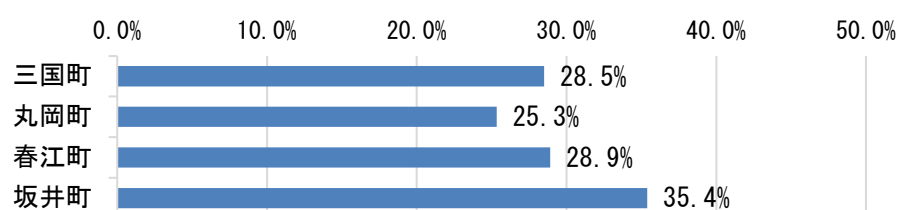


【町別クロス集計結果】

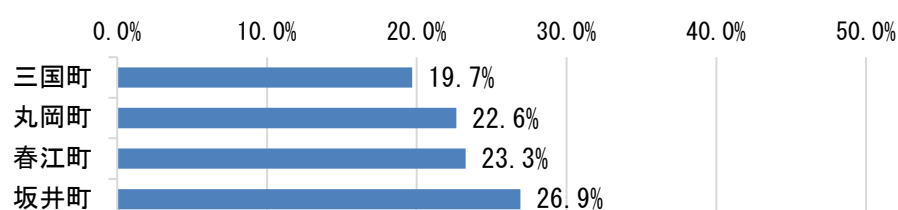
(1) 地域コミュニティとしての役割を担っている



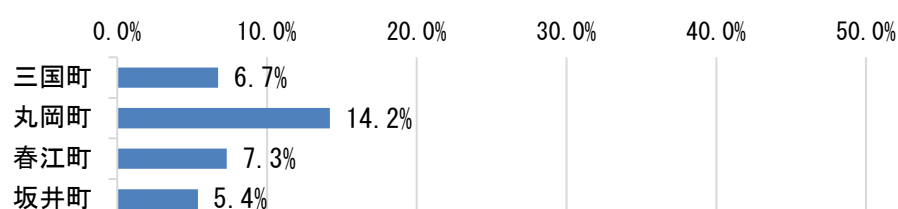
(2) 搬出場所まで距離があるので、地域の要望に応じ、搬出場所を増やすべき



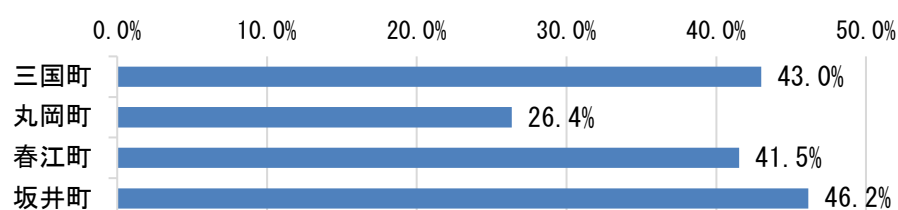
(3) 可燃ごみのステーションを使い、回収する資源ごみを曜日ごとに变えるべき



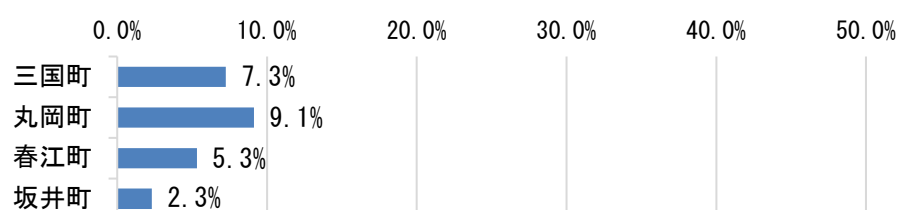
(4) 拠点回収方式を市内全域に広げていく方がよい



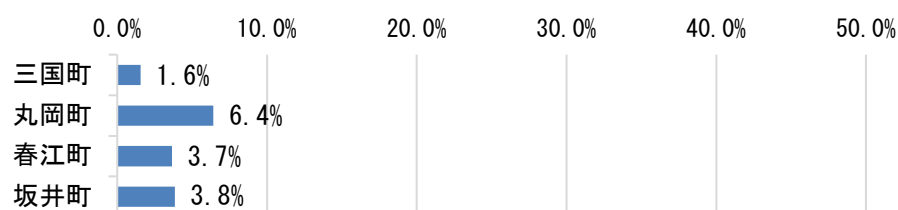
(5) 現在の回収方式が定着しているので、あえて統一する必要はない



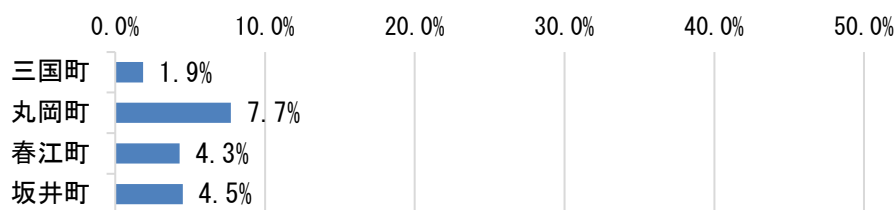
(6) 拠点回収方式は、坂井市の財政に大きなメリットがある



(7) 拠点回収方式は取りやめるべきである



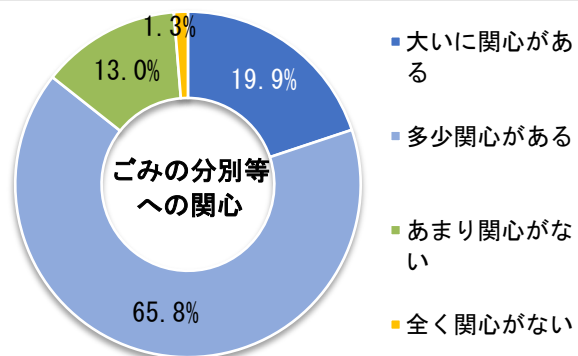
(8) その他



5 ごみの減量などについて

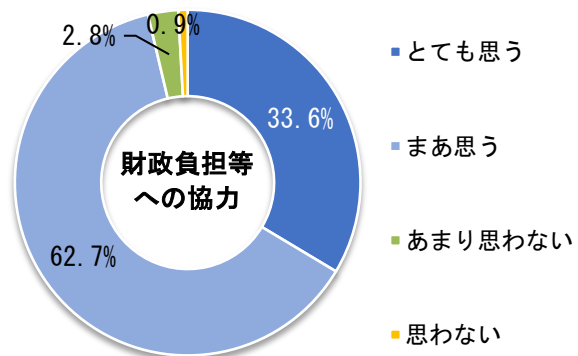
問22 あなたは、ごみの分別と減量化についてどれくらい関心がありますか。(○は1つ)

「多少関心がある」が約 66%と最も高く、次いで「大いに関心がある」が約 20%となっています。



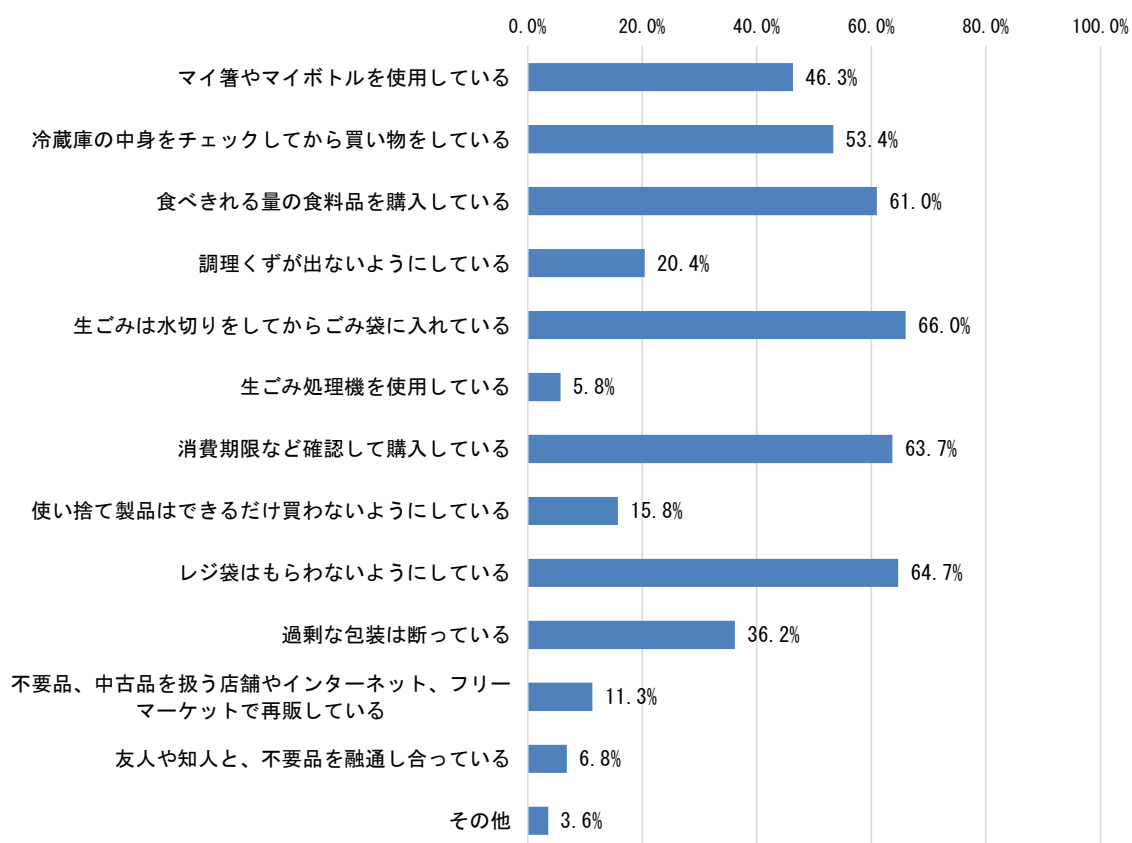
問23 坂井市では年間約2億6千万円のごみ処理・回収に費用がかかっています。あなたは、ごみの分別と減量化に取り組むことにより、この財政負担をできるだけ軽減し、地球環境への負荷も減らすことに協力したいと思いますか。(○は1つ)

「まあ思う」が約 63%と最も高く、次いで「とても思う」が約 34%となっています。



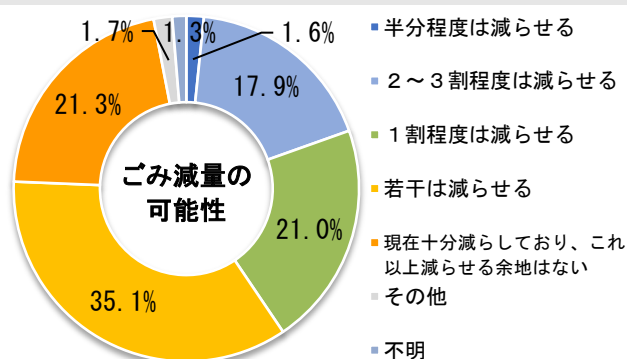
問24 あなたは、ごみの減量のため、どのような事に取り組んでいますか。(〇はいくつでも可)

「生ごみは水切りをしてからごみ袋に入れている」が最も高く、次いで「レジ袋はもらわないようにしている」、「消費期限など確認して購入している」、「食べきれる量の食料品を購入している」、「冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物をしている」、「マイ箸やマイボトルを使用している」、「過剰な包装は断っている」となりました。



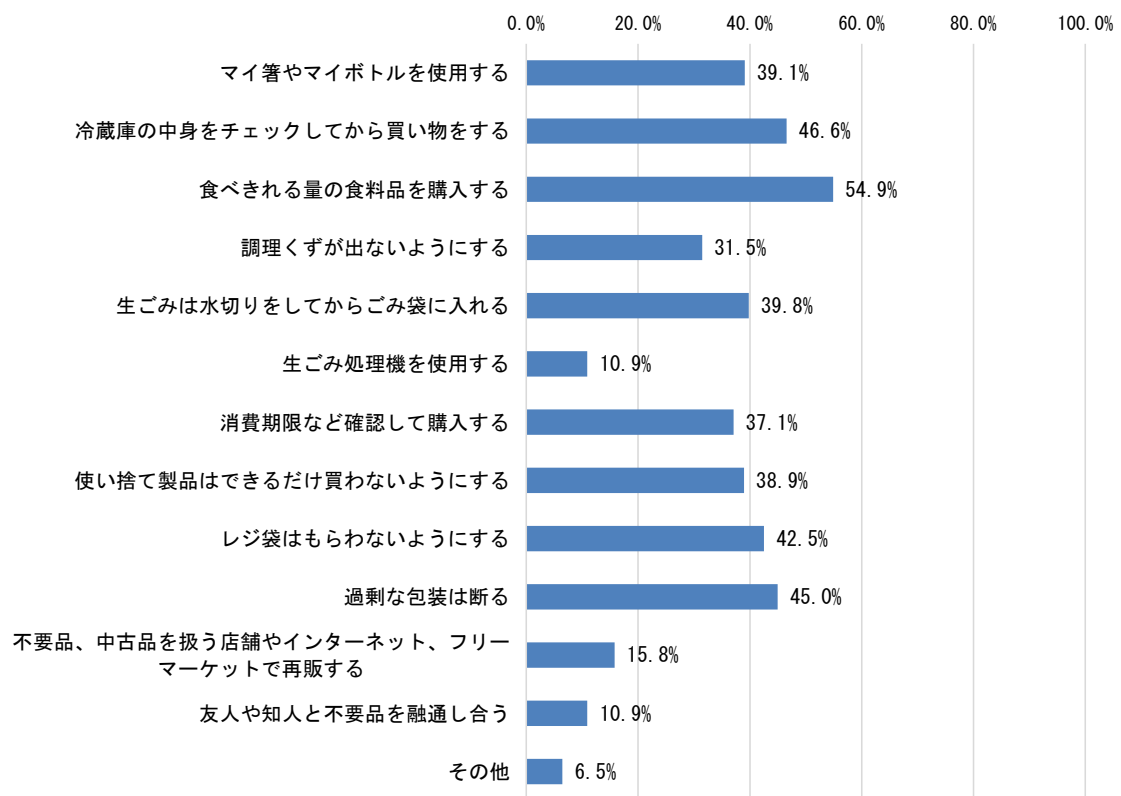
問25 あなたの家庭では、ごみの発生抑制や資源化に取り組むことにより、現在出している燃やせるごみの量を、どの程度まで減らすことが可能と考えますか。(〇は1つ)

「若干は減らせる」が約35%と最も高く、次いで「1割程度は減らせる」「現在十分減らしており、これ以上減らせる余地はない」が約21%となっています。



あなたは、ごみの量をさらに減らすためには、これからどのように取り組む必要があると考えますか。(〇はいくつでも可)

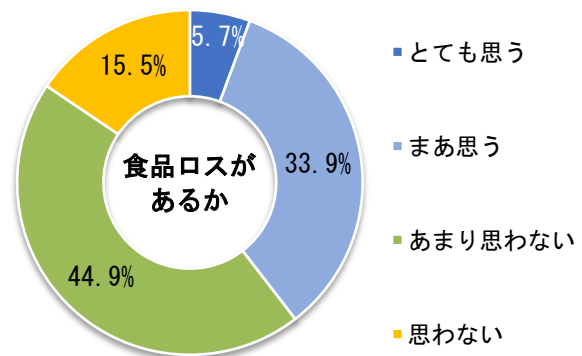
「食べきれる量の食料品を購入する」が最も多く、次いで「冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物をする」、「過剰な包装は断る」、「レジ袋はもらわないようにする」、「生ごみは水切りをしてからごみ袋に入れる」、「マイ箸やマイボトルを使用する」、「使い捨て製品はできるだけ買わないようにする」となっています。



6 食品ロスについて

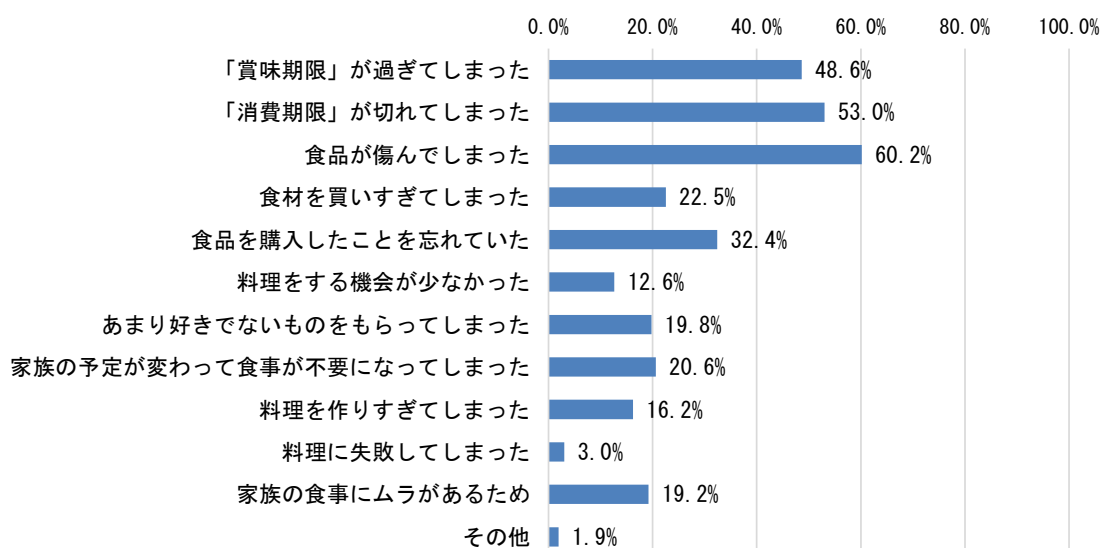
問26 あなたの家庭では「食品ロス」を出していると思いますか。(〇は1つ)

「あまり思わない」が約45%と最も高く、次いで「まあ思う」が約34%となっています。



あなたの家庭で発生する食品ロスは、主にどのようなことが原因だと考えますか。(〇はいくつでも可)

「食品が傷んでしまった」が最も多く、次いで「消費期限が切れてしまった」、「賞味期限が過ぎてしまった」、「食品を購入したことを忘れていた」、「食材を買いすぎてしまった」となりました。



7 ご意見・ご要望（自由回答）

分類	主なご意見・ご要望
資源ごみの回収方法	・回収方法が違うことを初めて知った。 ・丸岡地区だけ回収方法が違うのはおかしい。 ・拠点とステーションの利点を取り入れられないか。 ・回収場所が遠いので将来持って行けるか不安。 ・既存のステーションを活用したり、新しく回収場所を設置して、近場で回収して欲しい。 ・生活リズムに回収時間が合わない。 ・仕事や高齢のため当番への協力が困難・負担。 ・店頭回収が便利で助かっている。扱う品目が増えると良い。 ・いつでも出せる場所があると良い。 ・プラスチックごみが増えているので回収頻度を増やして欲しい。 ・びん類など店頭回収が少ない品目の回収頻度を増やして欲しい。

分類	主なご意見・ご要望
ごみ出しのルール	・ごみの出し方や分別のルールが分からない。 ・回収日や回収場所が分からない。 ・ごみ出しの時間を守らない人がある。 ・地区外の方がごみを置いていく。 ・幹線道路沿いは不法投棄、ポイ捨てが多い。 ・外国籍の方が増えており、ルールの周知が必要。 ・ごみ袋に氏名を記入しない人がある。⇔ 必要ない。 ・ペットボトルを回収するネット袋が少ないため、入りきらない。袋を増やすなど対応して欲しい。
ごみ出し支援	・高齢者や障がい者の方のごみ出し支援が必要。 ・ルールを理解してもらうためのサポートが必要。 ・回収場所での掲示板や看板設置を補助できないか。 ・ごみカレンダーやごみサポ！アプリの翻訳が必要。 ・冬季のごみ出しは、除雪が大変で困ることがある。
意識啓発	・生ごみの水切りをもっと周知してはどうか。 ・ごみに関する広報を増やしてはどうか。 ・回収された資源がどう処理されるのか、それによってどれだけ財政負担が軽減されるのか教えて欲しい。 ・資源ごみはどのような過程で再利用されているのか、量や費用も含めて具体的に教えて欲しい。
その他	・指定ごみ袋の価格が高い。安くして欲しい。 ・指定ごみ袋が破れやすい。強くして欲しい。 ・集団回収に出しているが、保管場所に困る。 ・学校単位での回収に頼っているが、子どもの減少で保護者の負担が増えている。いずれ運用が難しくなることを見据えて、回収の機会や場所を再検討することが必要。 ・某スーパーが行っているポイント付与制度は良いと思う。 ・容器などを分別・資源化しやすいように、企業に協力してもらうことが必要。 ・草木や落ち葉の掃除、ごみ出しが大変。 ・生ごみ処理機の購入補助を導入して欲しい。

■ アンケート調査用紙

坂井市ごみに関するアンケート

調査ご協力をお願い

令和6年8月
坂井市長 池田 禎孝

口頃から市の環境行政につきましては、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
人口減少や高齢化が進む今日、市民の生活スタイルや価値観の違いなど、社会情勢が大きく変化している中で、ごみの減量化や分別といった様々な課題が顕在化してきております。

こうした問題を考慮しつつ、ごみの効果的な出し方やリサイクルのあり方等について、
今回、第二次坂井市一般廃棄物処理基本計画（令和2～11年度）が中間見直しとなるため、「ごみに関するアンケート」を実施することにいたしました。この調査は、今後のごみに関する施策の検討資料として活用させていただくものです。

お忙しいなか、お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

- 調査の実施にあたりましては、市内にお住まいの方から、無作為に満20歳以上の2,000名の方を抽出し、アンケートをお送りしております。発送日の関係で住民異動先等に行き違いがありましたらご了承願います。
- ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的な処理をして利用します。
- ご回答者様の個人を特定することはありません。また、上記の目的以外の利用はしません。

～ ご回答にあたっての注意事項 ～

1. 記入には、鉛筆、ボールペンを使用してください。
2. 質問の内容に従って、あてはまる項目の番号を○で囲んでください。
また、「その他」を選択された場合は、（ ）内に必要事項をご記入ください。
3. ○をつける数は、質問によって異なりますのでご注意ください。
4. ご記入が済みましたら、**令和6年9月17日（火）までに**、いずれかの方法にてご回答ください。
（1）同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、郵便ポストへ投函
（2）以下のURLもしくはQRコードから回答フォームに入力
回答フォームURL <https://logoform.jp/form/vZnt/678256>

このアンケートについてのお問合せは、

坂井市 生活環境部 環境推進課〔開庁時間：8:30～17:15（土日祝日を除く）〕

電話：0776-50-3032（直通） FAX：0776-66-2940

メールアドレス：kankyou@city.fukui-sakai.lg.jp

☞こちらのQRコードからもご回答いただけます。



あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- (1) 男性 (2) 女性 (3) その他 (4) 答えたくない

問2 あなたの年齢をお答えください。令和6年8月1日現在の満年齢をご記入ください。

満()歳

問3 あなたのご職業をお答えください。(○は1つ)

- (1) 会社員(公務員を含む) (2) 自営業(農業等を含む) (3) 学生
(4) 専業主婦(夫) (5) パート・アルバイト (6) その他

問4 あなたの家の居住者はあなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

- (1) 1人 (2) 2人 (3) 3人 (4) 4人
(5) 5人 (6) 6人以上

問5 あなたのお住いの住宅についてお答えください。(○は1つ)

- (1) 一戸建て住宅 (2) 集合住宅 (3) 店舗兼住宅
(4) 社宅・寮 (5) その他()

問6 あなたのお住いの地域をお答えください。(○は1つ)

- (1) 一の部 (2) 二の部 (3) 三の部 (4) 四の部 (5) 雄島
(6) 加戸 (7) 公園台 (8) 新保 (9) 浜四郷 (10) 三国東部
(11) 三国木部 (12) 鳴鹿 (13) 磯部 (14) 高椋 (15) 高椋東部
(16) 城のまち (17) 長畝 (18) 竹田 (19) 江留上 (20) 春江中部
(21) 春江西部 (22) 大石 (23) 春江東部 (24) 東十郷 (25) 大関
(26) 兵庫 (27) 坂井木部 (28) わからない

燃やせるごみのごみ出しの状況についておたずねします。

問7 あなたの家庭では、主に誰がごみを出していますか。(○は1つ)

- (1) 自分 (2) 同居の家族等 (3) 別居の家族や親類
(4) 近所の人 (5) ヘルパー等 (6) その他()

問8 あなたの家庭では、「ごみの3きり運動」※1に取り組みごみを出していますか。
(○は1つ)

- (1) 取り組んでいる (2) 取り組んでいない (3) 一部取り組んでいる

※1「3きり運動」とは、ごみを捨てる時に水をきる「水きり」、買った食材を使いきる「使いきり」、食べ残しをしない「食べきり」の3つの「きり」のこと。

問 9 あなたやご家族は、身体が不自由などの理由からごみ出しを同居の家族以外の方に手伝ってもらっている坂井市内のご家庭をご存知ですか。(○は1つ)

- (1) 知っている (2) 知らない



◆「(1) 知っている」を選んだ場合

その方は、どなたにごみ出しを手伝ってもらっていますか。(○は1つ)

- (1) 別居の家族や親類 (2) 近所の人 (3) ヘルパー等
(4) わからない (5) その他 ()

問 10 あなたの家庭では、民間（スーパー等）のリサイクルステーションを利用していますか。また、利用している場合、年間に民間リサイクルステーションに出す資源物の量は、市のごみ回収に出す量と比べてどうですか。(それぞれ○は1つ)

	利用していない	利用している が、 <u>市の回収に 出す量よりも少 ない</u>	利用しており、 <u>市の回収に出す 量よりも多い</u>	わからない
新聞・チラシ	1	2	3	4
段ボール	1	2	3	4
雑誌	1	2	3	4
雑がみ	1	2	3	4
紙パック	1	2	3	4
食品トレイ	1	2	3	4
スチール缶	1	2	3	4
アルミ缶	1	2	3	4
ペットボトル	1	2	3	4
廃食油	1	2	3	4

資源ごみの分別の考え方についておたずねします。

問 11 缶類の分別について、あなたはどこまで対応できると考えますか。(○は1つ)

- (1) アルミ、スチール、その他の缶の3種類に分別する。(丸岡町)^{※1}
(2) アルミ、その他の缶類（スチール缶を含む）の2種類に分別する。
(3) 缶類すべてを同一の回収袋で回収する。(三国町・春江町・坂井町)^{※2}
(4) その他 ()

※1 現在、この分別方式を実施している町

※2 坂井市では、回収後、福祉施設で働く方の協力によって分別されています。

問 1 2 古紙類の出し方について、どのような出し方がいいと考えますか。(○は1つ)

- (1) 地区の資源ごみの回収日に出す。(丸岡町)^{※1}
- (2) 学校(PTA)や子ども会等が実施する集団回収で出す。(三国町・春江町・坂井町)^{※2}
- (3) 市内に回収場所を数か所設け、いつでも出すことができるようにする。
- (4) その他()

※1 現在、この分別方式を実施している町

※2 現在、この回収方式で実施している町

資源ごみのごみ出し状況についておたずねします。

問 1 3 ごみステーションの管理当番は1年で何回程度ありますか。(○は1つ)

- (1) 0～1回 (2) 2～3回 (3) 4回以上 (4) 当番制がない

問 1 4 当番について、あなたはどのように感じていますか。(○は1つ)

- (1) 地域への協力のため当然だ (2) しかたがない (3) 不満だ
- (4) その他()



◆「(3) 不満だ」を選んだ場合

どのような理由で不満だと感じていますか。(○はいくつでも可)

- (1) 日常の忙しさによる時間の制約
- (2) 他の家事や仕事との兼ね合い
- (3) 作業に時間と手間がかかる
- (4) ごみの臭いや汚れに嫌悪感を抱く
- (5) 区の収集日の確認体制
- (6) その他()

問 1 5 当番制度を改善するためには、どのような点に注力すべきだと考えますか。

(自由回答)

問 1 6 資源ごみの回収方法が丸岡地区とその他3地区(三国・春江・坂井地区)で異なっていることをご存じですか。(○は1つ)

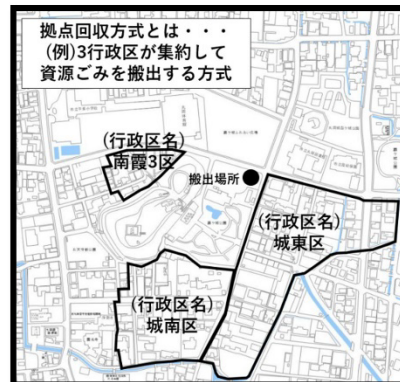
- (1) 知っている (2) 知らない

問 17 丸岡地区が行っている「拠点回収方式」※1をご存じですか。(○は1つ)

(1) 知っている (2) 知らない

※1 拠点回収方式とは? 【丸岡地区の回収方式の例】

複数の行政区をグループ化し、決められた1か所に資源ごみを搬出する方式



丸岡地区にお住まいの方におたずねします。 ⇒ 問18、問19へ

三国・春江・坂井地区にお住まいの方におたずねします。 ⇒ 問20へ

(丸岡地区にお住まいの方のみ)

問 18 資源ごみの回収方法について、現状および今後を見据えた場合、どの方式がお住いの区にあっていると考えますか。

(1) 拠点回収方式 (2) ステーション回収方式※1

※1 ステーション回収方式とは? 【他3地区のステーション回収方式の例】

行政区内にある、決められた場所に資源ごみを搬出する方式



(丸岡地区にお住まいの方のみ)

問 19 「拠点回収方式」を今後も続けた方がよいと考えますか。(○は1つ)

(1) 続けた方がよい (2) 続けない方がよい (3) わからない

(三国・春江・坂井地区にお住まいの方のみ)

問 20 丸岡地区が行っている「拠点回収方式」を市全域で展開するとした場合、賛同しようと考えますか。(○は1つ)

(1) 賛同する (2) 賛同しない (3) わからない

(問 21以降は全対象)

問 21 「拠点回収方式」についてどのように考えますか(○はいくつでも可)

- (1) 地域コミュニティとしての役割を担っている
- (2) 搬出場所まで距離があるので、地域の要望に応じ、搬出場所を増やすべき
- (3) 可燃ごみのステーションを使い、回収する資源ごみを曜日ごとに変えるべき
- (4) 拠点回収方式を市内全域に広げていく方がよい
- (5) 現在の回収方式が定着しているので、あえて統一する必要はない
- (6) 拠点回収方式は、坂井市の財政に大きなメリットがある
- (7) 拠点回収方式は取りやめるべきである
- (8) その他 ()

ごみの減量などについておたずねします。

問 22 あなたは、ごみの分別と減量化についてどれくらい関心がありますか。

(○は1つ)

- (1) 大に関心がある (2) 多少関心がある (3) あまり関心がない
- (4) 全く関心がない

問 23 坂井市では年間約2億6千万円のごみ処理・回収に費用がかかっています。

あなたは、ごみの分別と減量化に取り組むことにより、この財政負担をできるだけ軽減し、地球環境への負荷も減らすことに協力したいと思いますか。

(○は1つ)

- (1) とても思う (2) まあ思う (3) あまり思わない (4) 思わない



◆「(3) あまり思わない、(4) 思わない」を選んだ場合

その理由は何ですか。

理由 ()

問 2 4 あなたは、ごみの減量のため、どのような事に取り組んでいますか。

(○はいくつでも可)

- (1) マイ箸やマイボトルを使用している
- (2) 冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物をしている
- (3) 食べきれない量の食料品を購入している
- (4) 調理くずが出ないようにしている
- (5) 生ごみは水切りをしてからごみ袋に入れている
- (6) 生ごみ処理機を使用している
- (7) 消費期限などを確認して購入している
- (8) 使い捨て製品はできるだけ買わないようにしている
- (9) レジ袋はもらわないようにしている
- (10) 過剰な包装は断っている
- (11) 不要品、中古品を扱う店舗やインターネット、フリーマーケットで再販している
- (12) 友人や知人と不要品を融通し合っている
- (13) その他 ()

問 2 5 あなたの家庭では、ごみの発生抑制や資源化に取り組むことにより、現在出している燃やせるごみの量を、どの程度まで減らすことが可能と考えますか。

(○は1つ)

- 
- (1) 半分程度は減らせる
 - (2) 2～3割程度は減らせる
 - (3) 1割程度は減らせる
 - (4) 若干は減らせる
 - (5) 現在十分減らしており、これ以上減らせる余地はない
 - (6) その他 ()

◆ 「(1)～(4)」を選んだ方におたずねします。

あなたは、ごみの量をさらに減らすためには、これからどのように取り組む必要があると考えますか。(○はいくつでも可)

- (1) マイ箸やマイボトルを使用する
- (2) 冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物をする
- (3) 食べきれない量の食料品を購入する
- (4) 調理くずが出ないようにする
- (5) 生ごみは水切りをしてからごみ袋に入れる
- (6) 生ごみ処理機を使用する
- (7) 消費期限などを確認して購入する
- (8) 使い捨て製品はできるだけ買わないようにする
- (9) レジ袋はもらわないようにする
- (10) 過剰な包装は断る
- (11) 不要品、中古品を扱う店舗やインターネット、フリーマーケットで再販する
- (12) 友人や知人と不要品を融通し合う
- (13) その他 ()

食品ロスについておたずねします。

問 2 6 あなたの家庭では「食品ロス※1」を出していると思いますか。(○は1つ)

(1) とても思う (2) まあ思う (3) あまり思わない (4) 思わない

※1 食品ロスとは、“使い忘れや食べ残し等で捨てられてしまう食品”のこと。

◆ 「(1)～(2)」を選んだ方におたずねします。

あなたの家庭で発生する食品ロスは、主にどのようなことが原因だと考えますか。(○はいくつでも可)

- (1) 「賞味期限」が過ぎてしまった (2) 「消費期限」が切れてしまった
(3) 食品が傷んでしまった (4) 食材を買いすぎてしまった
(5) 食品を購入したことを忘れていた (6) 料理をする機会が少なかった
(7) あまり好きではないものをもらってしまった
(8) 家族の予定が変わって食事が不要になってしまった
(9) 料理を作りすぎてしまった (10) 料理に失敗してしまった
(11) 家族の食事にムラがあるため
(12) その他 ()

その他、坂井市のごみに関することやごみ出しでお困りのことなどご意見・ご要望をご記入ください。

(自由回答)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

3. 「拠点回収方式」に関する市民ワークショップ実施概要

(1) 開催の目的

平成16年度から丸岡地区時代にスタートした資源ごみの「拠点回収方式」。時代は変わり、人口減少・少子高齢化の加速やライフスタイルの多様化に伴って、ごみ出しが困難になる方が増えています。資源ごみの効果的な出し方やリサイクルの向上など、拠点回収方式には様々な課題があります。

ワークショップでは、1回目にごみの現状とごみ出しに関する地域の課題を共有し、2回目に地域の課題をどう解決していくのかを、地区参加者同士で考えてもらいました。

(2) 開催日程

令和6年7月24日（水）から10月2日まで 全10回

丸岡地区各コミュニティセンターで開催し、延べ130名の市民参加がありました。

地 区	場 所	日時（1回目）	日時（2回目）
		【ごみの現状と課題を探ります。】	【地域の課題と解決策を考えます。】
鳴鹿・高棕東部	鳴鹿コミュニティセンター	7/24（水）19：30～21：00	
	高棕東部コミュニティセンター		9/4（水）19：30～21：00
磯部	磯部コミュニティセンター	7/31（水）19：30～21：00	9/11（水）19：30～21：00
高棕	高棕コミュニティセンター	8/7（水）19：30～21：00	9/17（火）19：30～21：00
丸岡	丸岡城のまちコミュニティセンター	8/19（月）19：30～21：00	9/26（木）19：30～21：00
長畝・竹田	のうねの郷コミュニティセンター	8/28（水）19：30～21：00	10/2（水）19：30～21：00

(3) 実施方法

参加者が各グループに分かれ、付箋を使用しながら、資源ごみに関する意見を出し合い、グループワークの内容を模造紙にまとめました。ワークショップの進行とファシリテートは、環境推進課職員が行いました。

(4) 実施内容まとめ

①【ごみの現状】

主に集積場所、地区当番、分別、ルール・マナー、高齢化社会等について問題があります。

共働き世帯や高齢者世帯の増加に伴い、早朝のごみ出しや当番に対する負担が大きな問題となっています。

一方で、現行方式は分別が細かく大変ではあるが、環境意識の向上に結び付いており、地域の誇りとなり定着しているとの意見も伺えました。

②【課題】

人口減少・少子高齢化の加速やライフスタイルの多様化により、当番や集積場所への持ち込みが困難になりつつある問題もあるため、当番の負担軽減とごみの出しやすさやごみ出し支援等が課題となっています。

③【解決策】

分 類	メリット	デメリット	方策・要望など
集積場所の増設	- 出す場所が近くなる - 回収頻度を減らす	- 業者負担の増減 - 回収費用の増減	安心して出せる環境づくり
当番の負担軽減策	- 当番制をなくす - 当番時間を短くする	- 管理が行き届かない - 時間内に出せない人が増える	- とにかく大変、負担が大きい - 第三者機関へ委託
出しやすい分別のルールづくり	分別方法を続ける	分別がわかりづらい	びんの分別種類を一つ減らす
24時間ごみ出し可能な場所	- いつでも出せる - 気軽に出せる - 町内会への影響なし	- 場所の確保 - 管理が大変（不法投棄されやすい） - 高齢者に難しい - 回収費用の増	- 分別の集約化 24時間いつでも出せる拠点づくりの構築
店頭回収	- 買い物ついでに出せる - いつでも出せる	- 受け入れ体制と場所の確保 - 高齢者に難しい	スーパーに拠点方式の導入
(単独)ステーション方式 ^注	- 各地域、集落に合う方法を「選択」 - 高齢者にやさしい - 地域コミュニティー増	- 回収費用の増 - 業者負担の増 - グループ内協議の紛争	- 助け合い「共助」 - 戸別回収

注) 複数行政区のグループから退会し、行政区内にある決められた場所に搬出する。

(5) 今後について

拠点回収方式でのメリットもある中、ステーション回収方式の検討が必要な地域が顕在化しつつある現状もあります。すでに課題に直面し、ステーション回収方式の導入など解決策を見出した地域があることがわかり、地域に合う方法を各地区で具現化していくことが重要となります。

市は、各地域の実情に合わせて、柔軟に対応できる体制を構築するとともに、学校や店舗等の民間事業者との連携を図り、地域の選択肢を増やす支援や取組が必要となってきます。

また、回収業者との調整も課題としてあるが、効果的で可能な方策を検討していくことが求められています。

このほか、ごみの分別への理解を広めるとともに、分かりやすく、出しやすい分別ルールを検討していく必要もあります。

市民ワークショップの様子





拠点回収5つの課題(住民意見・一部抜粋)

1.高齢化社会

高齢者は重い
ごみを拠点ま
で持って行けな
い

高齢者が当番
するのは
大変危険

高齢者が当番
中に倒れて救
急車を呼んだ

2.場所

拠点回収場所
が狭く、車で来
るため渋滞や交
通障害がある

大雪の日は場
所の確保が大
変

集積場所に
照明がない

3.ごみ出し時間

ごみ出しに
時間がかかる

回収時間が
早くて、短い、
指定時間にゴ
ミ出しできな
い人がいる

子育て中の
共働きだと
負担が大きい

4.分別

資源ゴミの
分類が
細かすぎる

分別が多くて
分かりにくい
物があり、燃
えるゴミに入
れてしまう

今のゴミ当番
の時間だと、
若い人は仕
事に間に合わ
ない

当番の日は会
社を休み、何
回も回収場を
見に行かなけ
ればならない

勤務時間の
関係で出来な
い人がいる

当番は2時間
立ちっ放し
冬場はライト
で照らす必要
がある

拠点にごみを
出さないのも
当番をしたく
ない

区民は当番を
するが、町内
会に入ってい
ない人は
当番をしない

5.地区当番

住民意見からの解決策(一部抜粋)

ごみ出し困難者を地域で助け合う(共助)

24時間出せる場所があるなら、拠点回収方式のままでいい

地域の状況に応じて、拠点回収、ST方式が選択できるといい

いつでも出せる資源ごみ集積場所があるとよい

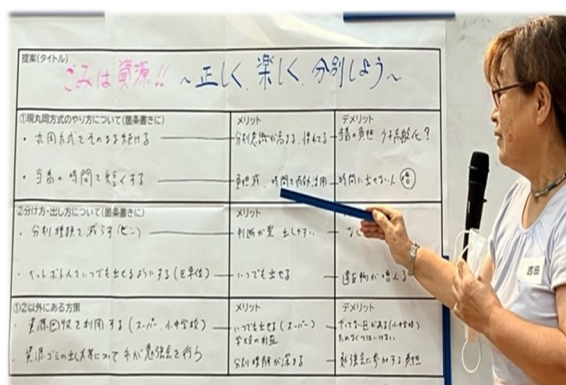
店頭回収を利用、スーパーで拠点方式を導入する

分別の意味を分かるようにすれば、分別がしやすくなる

土日でも出せる場所があれば、助け合うことができる

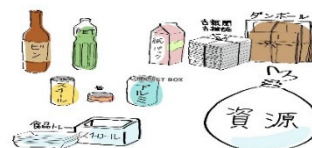
小中学校の資源回収を利用

ST方式となれば、将来的に回収日を減らしてもいい



『拠点回収方式』に関する市民ワークショップ実施概要

未来の姿と実現のための課題



“市民ごみワークショップや市民アンケートから見えてきたこと”

未来の姿



支援を必要とする方々が日常生活で安心して生活できる

“優しいごみ出し支援”

- ・ごみ出しが困難となる高齢者や障がい者、外国籍の方々などのごみ出し支援の取組
- ・地域でのごみステーション方式と拠点回収方式の「選択制」

地域の支え合いを強固なものにする

“地域コミュニティの形成”

- ・普段から近所や地域の中でのつながりや、お互いの助け合いの大切さを認識する（【共助の力】）
- ・ごみ当番を通じた交流を深める
- ・ごみ出しが困難となる方々へ地域での協働の取り組み
- ・地域コミュニティを高めるため市民協働課（未来トーク、自治会WS）と連携

行政の制度構築

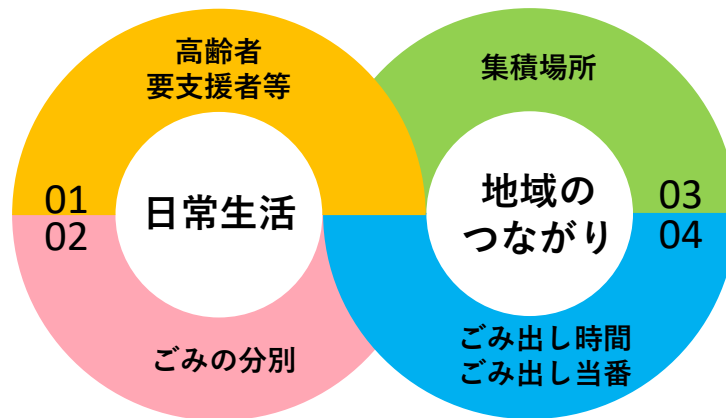
“市の役割”

○効率的な資源化と収集体制の構築

- ★拠点回収方式からステーション回収方式へ
地域の実情に合わせた選択制の支援や取り組み
- ★24時間いつでも搬入できる拠点整備
- ★スーパーや民間事業者と連携した店頭搬入への協力要請
（スーパーでの拠点回収導入）
- ★回収業者との連携協力



実現のための課題



01 高齢者・要支援者等

高齢者と要支援者等がともに安心して生活できるごみ出しの支援

- ・ 地域からの孤立に伴い、家にため込むごみ屋敷が増加
- ・ 年齢を重ねるとごみ出しが容易にできるか不安
- ・ 雨や雪の日はごみ出しが厳しい、出したいけど出せない

02 ごみの分別

分別への取り組みと意識啓発

- ・ 分別の区分が細かく仕分けが大変
- ・ 分別を理解していない人は、可燃ごみに出し、ごみが増える
- ・ 分別意識の高さと定着

03 集積場所

ごみ出しの負担軽減策の取り組み支援

- ・ 集積場所までが遠くごみ出しが一苦労
- ・ 運転免許証の返納時期が迫り、車での搬出が困難となる
- ・ 資源ごみを町内で出せるステーション化の移行

04 ごみ出し時間とごみ出し当番

町内ルールの緩和と協働

- ・ 指定時間内にごみ出しができない
- ・ 勤め人の負担が大きい（時間拘束と後始末）
- ・ 仕事時間への対策（時間短縮）
- ・ 当番に出れない世帯への助け合い
- ・ 夜出せない
- ・ 当番が特に大変

4. 用 語 集

【ア行】

一般廃棄物	産業廃棄物以外の廃棄物。一般廃棄物はさらに「ごみ」と「し尿」に分類される。また「ごみ」は、商店、オフィス、レストラン等の事業活動によって生じた「事業系ごみ」と、一般家庭の日常生活に伴って生じた「家庭系ごみ」に分類される。
-------	--

【カ行】

環境基本法	環境の保全について、基本理念を定め、国、地方公共団体、事業者および国民の責務を明らかにするとともに、環境保全に関する施策の基本となる事項を定めた法律。地球環境保全を含めて、わが国の環境政策の基本的方向を示す基本法である。
-------	--

【サ行】

災害廃棄物	自然災害が起因して直接発生した廃棄物のうち、生活環境を保全する上での支障に対処するため、市区町村等がその処理を実施するもののこと。
最終処分場	最終的に廃棄物を埋立処分する場所。最終処分場は安定型、管理型、遮断型の３種類に大別でき、安定型では廃プラスチックやゴムくず、金属くずなど環境に影響を与えるような物質を生成しないものが埋め立てられる。管理型は環境を汚染する（河川を汚染したりする）可能性がある廃棄物が埋め立てられ、遮水シートや水処理施設などによって管理されている。遮断型は有害な廃棄物の処理のために、河川や地下水と遮断された処分場のこと。
産業廃棄物	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチックなど 20 種類の廃棄物をいう。大量に排出され、また処理に特別な技術を要するものが多く、廃棄物処理法の排出者責任に基づき、その適正な処理が図られる必要がある。
自然動態	一定期間における出生、死亡、婚姻、離婚に伴う人口の動き。
社会動態	一定期間における転入・転出（人口移動）に伴う人口の動き。
食品ロス	売れ残りや食べ残し、期限切れ食品など、本来は食べることができたはずの食品が廃棄されること。食品の廃棄や損失の原因は多様で、生産、加工、小売、消費の各段階で発生する。
循環型社会	大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会にかわるものとして提示された概念。循環型社会形成推進基本法では、「天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減された社会」としている。

循環型社会形成推進基本法	環境基本法の理念に基づき、循環型社会をつくるための基本原則を定めた法律。リデュース（廃棄物の発生抑制）→リユース（再使用）→リサイクル（再生利用）→熱回収→適正処分という処理の優先順位を明確にし、廃棄物等のうち有用なものを循環資源とした。製品の生産者は製品の再利用や処理についても責任を負うという拡大生産者責任の原則が規定された。
循環経済（サーキュラーエコノミー）	従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を指すもの。
食育	様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。平成17年に成立した食育基本法において、食育は、生きるための基本的な知識であり、知識の教育、道徳教育、体育教育の基礎となるべきもの、と位置づけられている。単なる料理教育ではなく、食に対する心構えや栄養学、伝統的な食文化、食ができるまでの第一次産業についての総合的な教育のことである。
3R（スリー・アール）	リデュース（reduce 廃棄物の発生抑制）、リユース（reuse 再使用）、リサイクル（recycle 再生利用、再資源化）の頭文字をとった言葉。環境にできるだけ負荷をかけない循環型社会を形成するための重要な標語であり、考え方である。資源の有効利用、環境保全の施策の基本となっている。

【タ行】

脱炭素社会	地球温暖化を防ぐため、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする社会像。「排出を全体としてゼロ」というのは、温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。
中間処理	収集したごみの焼却、下水汚泥の脱水、不燃ごみの破碎、選別などにより、できるだけごみの体積と重量を減らし、最終処分場に埋め立て後も環境に影響を与えないように処理すること。さらに、鉄やアルミ、ガラスなど再資源として利用できるものを選別回収し、有効利用する役割もある。
直接資源化	資源化等を行う施設を経ずに直接再生業者等に搬入すること。

【ハ行】

バイオマス	動植物から生まれた再生可能な有機性資源。代表的なものに家畜排泄物や生ごみ、木くず、もみがらがある。日本政府が定めた「バイオマス・ニッポン総合戦略」では、「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」と定義されている。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出を抑制し、及び廃棄物の適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理をし、並びに生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることを目的とした法律。廃棄物処理法、廃掃法と略される。
漂流漂着ごみ	海洋を漂流しているごみ及び海岸に漂着したごみの総称。「海ゴミ」とも呼ばれる。構成は多岐にわたっているが、主に漁業活動から発生するごみ（魚網や発泡スチロール製のウキなど）や、側溝や河川などを經由して海に流れ出た生活系のごみ（主にペットボトルなどの一次的な製品、または使い捨てを前提とした包装や容器類）などから成っている。
5 R（ファイブ・アール）	本市においては、3 Rに加えて、リフューズ（refuse 断る）、リペア（repair 修理する）の頭文字をとった言葉。5 Rに明確な定義はなく、他の「R」を用いて5 Rや7 Rと表現することもある。循環型社会の実現に向けて、3 Rの考え方が普及する中、資源循環や廃棄物問題への関心の高まりから、リフューズ（例：レジ袋を断る）やリペア（修理やリメイク）が注目されている。
フードドライブ	家庭で余っている食品や食材を、必要としている施設や団体などに寄付する活動のこと。
〔参考〕 フードバンク	企業や農家、個人から寄付された食品や食材を引き取り、必要としている施設等に無料提供する団体や活動のこと。
分別収集	廃棄物の中間処理（焼却処理やリサイクルなど）や最終処分を容易にするために、その材質ごとに廃棄物を分類し、それを収集すること。

【マ行】

マイクロプラスチック	海洋などの環境中に拡散した微小なプラスチック粒子のこと。海洋を漂流するプラスチックごみが紫外線や波浪によって微小な断片になったものや、合成繊維の衣料の洗濯排水に含まれる脱落した繊維、また研磨材として使用されるマイクロビーズなどが含まれる。
マイバッグ	地球環境の保全と資源保護を目的に、買い物時のマイバッグ（自前の袋）の持参によってレジ袋を削減し、環境に配慮する取組。
マイボトル	地球環境の保全と資源保護を目的に、水筒やコップ等の持参によって使い捨て飲料容器を削減し、環境に配慮する取組。

第二次坂井市一般廃棄物処理基本計画〔改定版〕

発 行 日：令和 7 年 3 月 改定

発 行：坂井市

編 集：生活環境部 環境推進課

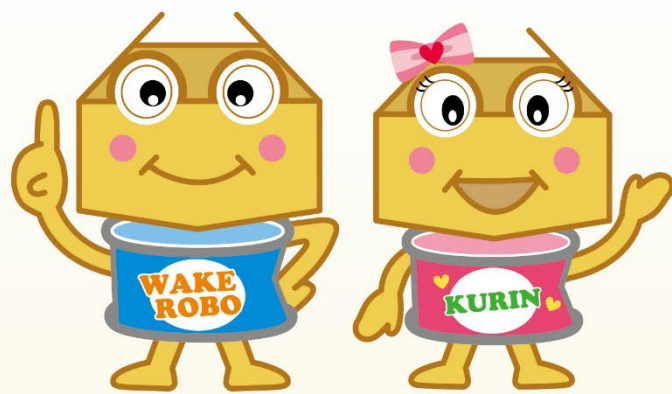
〒919-0592

坂井市坂井町下新庄 1－1

電話 番 号：0776-50-3032

FAX 番 号：0776-66-2940

E-M a i l：kankyou@city.fukui-sakai.lg.jp



ワケロボくん

クリンちゃん